2W-5
特67
995

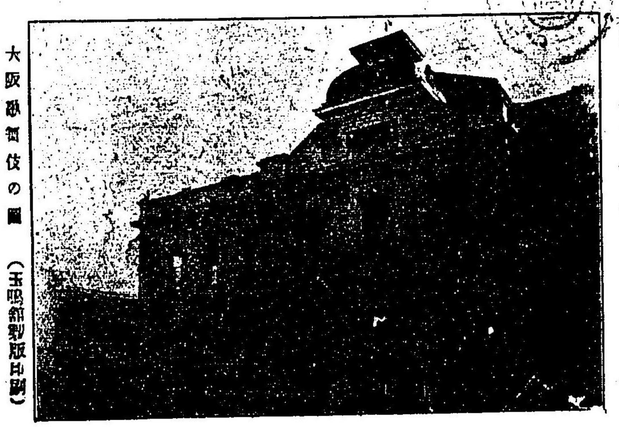
大阪劇場新報

第弐號

太閤記

大森彦七　市川團十郎

（寫元館寫生）



大阪砂糖仕入の圖　（國貞版寫生）

大阪劇場新報發賣之辭　第二報

市川團十郎丈は日本一の名優にして今や大阪歌舞伎に於て其名聲を博し男女に論なく市人にして觀劇せざる恥とせり焉佳人の花は未だ日本に無き新發明のおしろいにして今や大阪新町に於て其花を開き才士佳人に歡迎せられ非常の噂を博し近時興行人社會にけ佳人の花よりよき物は他に決じて非ざるとの賞贊を得之使用せざるを恥とせり未だ知り玉はざる美麗好な男子や御婦人方よ早く御試用ありて流行に後れ給ふこと勿れ佳人の花は觀劇遊山の際携帶に便利なる優美のコッケル製珍器に容れたり

▲在來のおしろいは、イヤニ白く目立ちやぼらしく「かほ」の色つやと思ひざらく して あれる といふことが世間一般の評判となれり

▲弊堂は此小書あるを愛ひ佳人の花を發明したり其性全く在來のおしろいと違ひおしろいやげせぬ至大無上の其品なれば いかに「きめ」あらく色黑さ……男女にても驚くほど白く……美麗に……なること」試驗及び……學問上確く保証す

▲佳人の花……は よく賣れる大評判の新發明おしろいなれば何處の賣藥店小間物店にても取次販賣せり最寄にて御求めあれかし

一度つけ玉へばドーシテモやめられぬ

登録商標

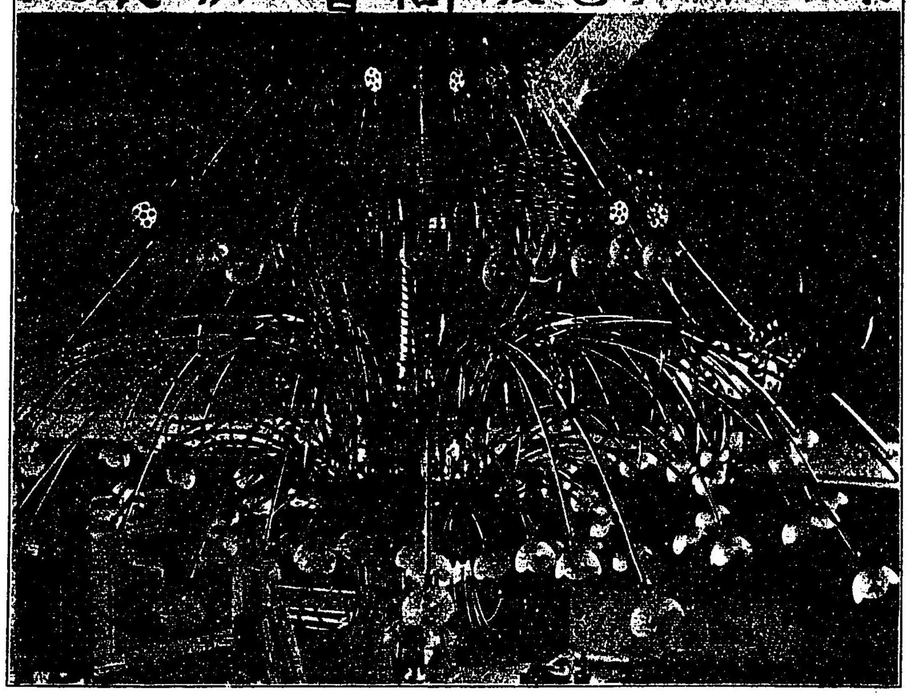
佳人の花

本舗　大阪新町通二丁目　伊藤朝日堂

●佳人の花は在來おしろいの如くいやらしきやぼな物ならず これをつけたることが他人に少しも分らずして「御かほ」がなんとも かとも言ふにいわれぬ白くうつくしき色つやとなりソシテいきデ高尚の匂ひある發明品なり

試み　金五錢
小鑵　金拾二錢
大鑵　金廿五錢
特別最上品桐箱入
小鑵　金五拾錢
大鑵　金三拾錢

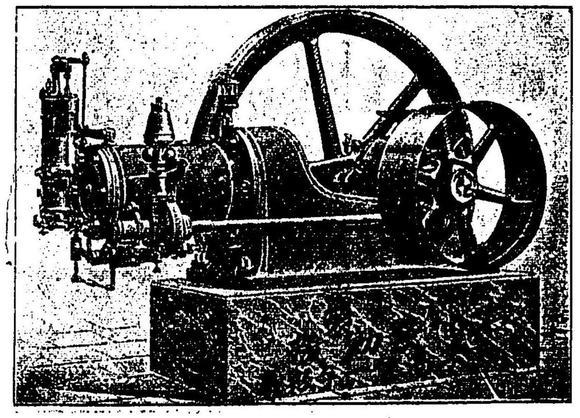
京都市　才賀電機商會工場製造



日本一ノ俳優ハ團十郎ナリ
日本一ノ新演劇ハ大阪歌舞伎ナリ
日本一ノ大サンデリヤ及石油發動機ハ大阪歌舞伎ニアリ
日本一ノ大サンデリヤ（歌舞伎ノ大電燈）ハ才賀電機商會ノ製造ナリ
日本一ノ石油發動機ハ十文字商會ノ販賣品ナリ
日本一ノ重過燐酸肥料ハ十文字商會ノ日本全權一手販賣ナリ
日本一ノ上印白絞油ハ白山商店ノ製造品ナリ
日本一ノ以上ノ諸品ヲ販賣スルハ日本ノ三都ニアリ

スチツル及ドイツ製
石油發動機大販賣所
英國アルベルト會社製
重過燐酸肥料一手販賣
安全耐風燐寸
輕便消火器販賣

電氣諸機械製造販賣
設計請負及監督
東京三吉電機工場
關西一手販賣所
大阪白山京都代理店



大阪市堂島濱壹丁目
東京　十文字商會
大阪出張所
代理店　京都市寺町佛光寺

京都市寺町佛光寺
才賀電機商會
出張店　豐前門司港
代理店　大阪市堂島濱壹丁目

大阪劇場新報　第二報

發賣之辭

市川團十郎丈は日本一の名優にして今や大阪歌舞伎に於て其名聲を博し男女に論なく市人にして觀劇せざるを恥とせり焉佳人の花は未だ日本に無き新發明のおしろいにして今や大阪新町に於て其花を開き才士佳人に嶽迎せられ非常の喝采を博し近時貴婦人社會には佳人の花よりよき物は他に決して非ざるとの賞賛を得之使用せざるを恥とせり未だ知り玉はざる美麗好なる男子や御婦人方よ早く御試用ありて流行に後れ給ふこと勿れ佳人の花は觀劇遊山の際携帶に便利なる優美のコツケル製珍器に容れたり

▲在來のおしろいはイヤニ白く目立ちやばらしく「かほ」の色つやを悪くしざらくしてあれるといふことが世間一般の評判となれり

▲藥堂は此小言あるを憂ひ佳人の花を發明したり其性全く在來のおしろいと違ひおしろいやけせぬ至大無上の良品なればいかに「きめ」…あらゝ色黑き…男女にても驚くほど白く…美麗に……なること試驗及び…學問上確く保証す

▲佳人の花……はよく賣れる大評判の新發明おしろいなれば何處の賣藥店小間物店にても取次販賣せり最寄にて御求めあれかし

一度つけ玉へばドーシテモやめられぬ

登錄商標

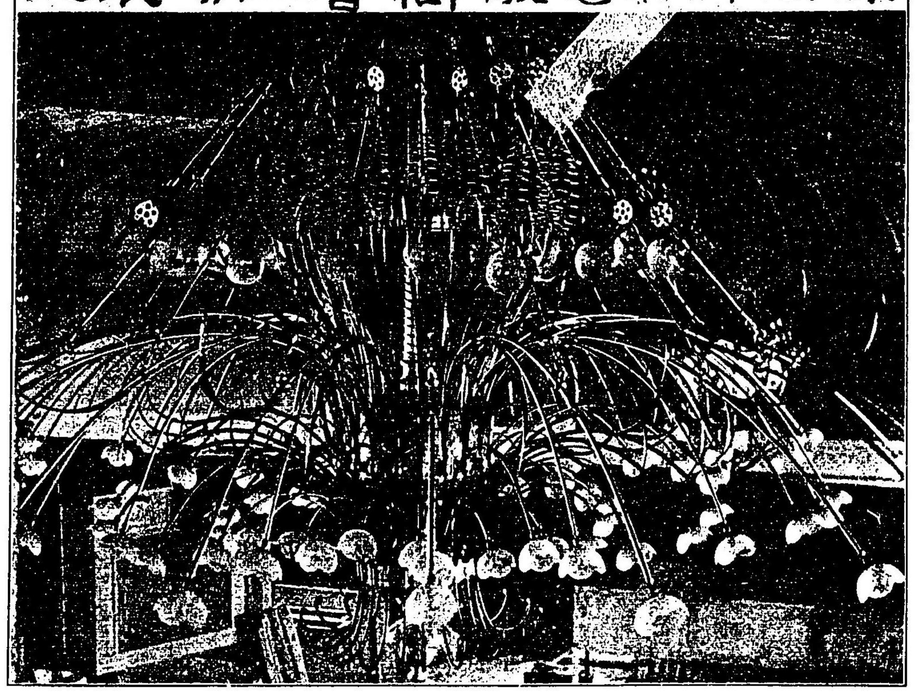
本舗　大阪新町通二丁目　伊藤朝日堂

佳人の花

●佳人の花は在來おしろいの如くいやらしきやぼな物ならずこれをつけたることが他人に少しも分らずして「御かほ」がなんとも かとも言ふにいわれぬ白く うつくしき色つや となりソシテいきデ高尚の匂ひある發明品なり

〜試み　金五錢
〜小鑵　金拾二錢
〜大鑵　金廿五錢
特別最上品桐箱入
〜小鑵　金五拾錢
〜大鑵　金三拾錢

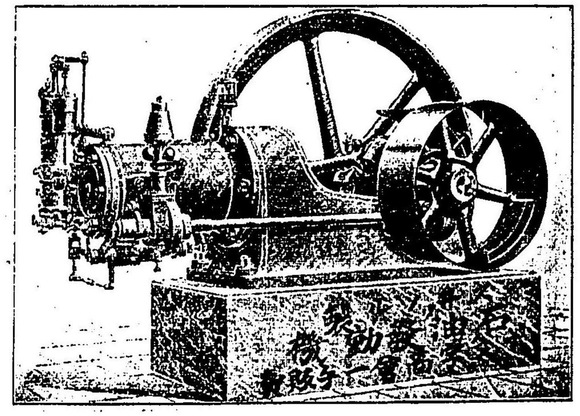
京都市　電機商會　工場製造



日本一ノ俳優ハ團十郎ナリ
日本一ノ新演劇ハ大阪歌舞伎ナリ
日本一ノ大サンデリヤ及石油發動機ハ大阪歌舞伎ニアリ
日本一ノ大サンデリヤ（歌舞伎ノ大電燈）ハ才賀電機商會ノ製造ナリ
日本一ノ石油發動機ハ十文字商會ノ販賣品ナリ
日本一ノ重過燐酸肥料ハ十文字商會ノ日本全權一手販賣ナリ
日本一ノ上印白絞油ハ白山商店ノ製造品ナリ
日本一ノ以上ノ諸品ヲ販賣スルハ日本ノ三都ニアリ

スキツル及ドイツ製
石油發動機大販賣所
英國アルベルト會社製
重過燐酸肥料一手販賣
安全耐風燐寸
輕便消火器販賣

電氣諸機械製造販賣
設計請負及監督
東京三吉電機工場
關西一手販賣所
大阪白山京都代理店



大阪市堂島濱壹丁目
東京　十文字商會
大阪出張所
代理店　京都市寺町佛光寺

京都市寺町佛光寺
才賀電機商會
出張店　豐前門司港
代理店　大阪市堂島濱壹丁目

一番目　裏表忠臣藏（序幕）

大序　鶴ヶ岡社前の場

一足利直義　片岡土之助
一鹽谷判官　市川染五郎
一顔世御前　中村富十郎
一高師直　市川八百藏
一桃の井若狭之介　尾上多見之助
一其他大名雜色等大勢

幕明くと社前には足利直義公階前には高師直、桃井若狭之助、鹽谷判官其他數名の大名居並び　直「先頃討死せし新田義貞が最期の時まで冠りし兜は後醍醐の御門より賜はつたる兜なり其を其儘打捨置くは恐れあれば當社の寶藏へ納め置かんと思ふなりと言ふを　師「其儀然らべからず朝敵の義貞が着せし兜を尊敬あるは如何なりと異議を唱へるを　若「義貞の御當家とは同じ源家の流れなれば禮を盡くさるゝが當然なりと詞尊ひに成るを直義制し鹽谷の室顔世御前は先帝に宮仕へせし者にて手づから兜を義貞に授けし由なれば能く存じ居らんと顔世を呼出し唐櫃を昇出だせ　何れが義貞の着せし兜なるか檢めさせる、顔世「四十七ある兜の中孰れとも見分らねとも蘭麝待の薫りある兜こそ夫なれと撰出して差出す是にて直義を初め判官若狭之助其他の大名皆々入る、跡に師直は好き機と顔世に言寄り密と艶書を渡し「我が口にて鹽谷の家を起さうと倒さうと勝手なりと掻口説かれ、顔世當惑の折柄若狭之助出來り師直を支へて顔世を歸す、師直は左らぬ方に若狭之助と中悪しき所へ已が戀路の妨げされ愈々立腹して執權職と笠に着て口穢く言罵る、性來短氣の若狭之助腹と怒りてアワヤ喧嘩に成らんとせし所へ遲御そとの聲高く聞ゆれば判官出來り此体を見て若狭之助を制する件にて幕

健腦丸は富貴の基なり

農商務省登録商標

大阪心齋橋森玉林堂製

藥價　一ケ月分　金壹圓　三日分　金十五錢
十三日分　金五十錢　一日分　金五錢
七日分　金三十錢　郵券一割增を請す
郵稅七日分迄四錢十三日分六錢一月分拾錢

◉神經をしづめ腦病を全治す

腦病　目かすみ耳鳴り不眠等の病症
神經　爲め腦を痛め搖搖等を起す病症
頭痛　眩暈、腦充血、腦膜炎を患ふる人
又婦人血の道にて逆上する病症
右之諸病其他逆上症一切に用ひて數年不治の難病を全治する適當の良劑なり

健腦丸は常に持藥として速服すれば精神快活にして中風卒中を未發に防ぐ特有の有効

健腦丸

大阪市南區心齋橋八幡筋南へ入
發行所　賣藥卸賣　丹平商會藥房
製劑所は全國到る處の藥店にあり　●偽物注意

日本元祖たか印ねりはみがき

帝國醫科大學教授理學士　長井長義先生分析證明
宮內省侍醫正四位勳二等　伊東方成先生實驗證明
陸軍々醫總監正四位勳二等　松本順先生實驗證明
海軍々醫大監正五位　樫村清德先生實驗證明
矢野義徹先生實驗證明

大阪市東區京橋二丁目出雲町一番地
大海道角
資生堂本舗
藥劑師　福原有信謹製
（電話壹四六貳番）

（壜製大器金貳拾五錢）

（壜製小器金拾五錢）

福原煉齒磨

福原煉齒磨は天然の齒磨にして化學的に作用し口中を除菌し齒垢を除去し口中を爽快にして一日も缺くべからざる常用品なり

福原煉齒磨は齒牙を堅固にし口臭を消し齒垢を除き口中を爽快にして一日も缺くべからざる常用品なり

福原煉齒磨は齒牙を堅固にし口臭を消し齒垢を除き口中を爽快にして一日も缺くべからざる常用品なり

福原煉齒磨は齒牙を堅固にし口臭を消し齒垢を除き口中を爽快にして一日も缺くべからざる常用品なり

福原煉齒磨は日本に於て嚆矢にして最も優良なる齒磨

受拜狀褒賞　第三回內國勸業博覽會に於て

意匠類似品夥多　現出數御求の際　圓形內鷹の商標御認を乞ふ

關西一手發賣元　大阪市新町通二丁目

化粧品醫藥品特約販賣所

特約販賣所
和洋小間物商各店
藥商各店
雜貨物商各店

●取次所は全國到る處前記の各商店にあり

二幕目　建長寺書院の場

一桃の井若狭之介　尾上多見之介
一家老加古川本蔵　中村珊瑚郎
其他所化數人

此は鎌倉建長寺書院の体にて所化ども燭臺を廻び客設けをして居る「御檀家の桃井若狭之助は兼て禪學に心を寄せられ當寺の長老とは入懇て有るが來る度毎にお談が長くなりお歸りの遲いには閉口する今日も御座ると直ぐにお位牌堂へ赴かせられ今に御代々の御位牌の前に座つて御座るが定めしお歸りは遲く成る事で有らうと噂の處へ所化一人出來　唯今是へ桃井樣お出なりと披露する、程無く桃井若狭之助翌の登城には師直を仕留て無念をはらさんと心を決しつゝ出來る、所化は長老に申傳へんとて入る、跡に若狭之助床の間に掛たる軸を眺め「高桃燈明天上月、豈疑久霖放新晴、梵天聲納唯堪怪、流水松風讀經聲　高桃燈明天上の月の一字が〻無念の氣色、折柄挑灯の家老加古川本蔵低かの召に出來り如何なる御用ぞと伺候する、若狭之助「床の間の掛物の詩句を指示し「此詩句の意を何と解するぞ　本「されば僧家に挑げし燈明を天上の月と疑ひ松吹く風を讀經の聲と怪む、俗人の冒瀆誠しやかにて賢者に紛ふと云ふ意を籠めたる詩なりと聞て　若「今晴渡る大空に光隈無き月の色と彼の花瓶に挿たる松の梢を漏るゝ月の眺めと孰れか勝りて見ゆるぞ　本「斯る太平の世の中なれば松の梢を漏るゝ月の色も一入かと存じます　若「其又松めが蔓擴がり却て月の光を透ぎる樣に成らば何に　本「斯る時には其松ケ枝を切て捨てゝ月を賞ることぞ然るべけれと存すると言ふに若狭之助膝を進め「然らば語り聞さんがと今日鶴が岡にて數多並居る大名の面前にて師直が爲に恥辱を取つれば明日の參會には彼奴を切て棄んと思ふなり家の斷絶思はぬでは無けれども師直一人を討取らば天下の爲じやと決心の体に本蔵「先君君の御短氣を愛ひ呉々も本蔵に賴むと御遺言ありしが武士の意地は是非も無し御思召次第にすつぱりと遊ばされよ但し師直両刀投出し犬突匐に成てお詫いたさば如何遊ばしまする　若「犬猫同前の奴切て捨るは刀の穢れ命斗りは助けて遣る　本「其御一言を承たまはり本蔵會得仕る人は一代名は末代物の見事にすつぱりと遊ばされませうと折柄時計の音するゆゑ　本「明鶏は正七ツ時の御登城最早御歸館遊ばしませうと伴僧を呼出し長老へ宜しくと挨拶して若狭之助起上り行かうとするを本蔵呼止めて床の間の松を持出し刀を拔てポンと切て「まづ此通りすつぱりと遊ばされませう　若「チ〻と呑込む件にて幕

三幕目　足利館城門の場　同　松の間の場

一高　師　直　市川八百蔵
一桃の井若狭之介　尾上多見之助
一鷲阪伴内　市川宗三郎
一仲　間　市川舛六
一同　市川大よし
一同　市川丹次郎
一鹽谷判官　市川染五郎
一梶川與惣兵衛　市川丹次郎
一其他留大名　大勢

幕明〻と向ふより師直乘物にて鷲坂伴内其他仲間附添ひ出來り　伴「只今にも桃井が家來梶川與惣兵衛是へ參りなば某がエヘンと咳拂ひを合圖に切捨てよと仲間に言附ける、折柄梶川與惣兵衛仲間に卷物黄金を臺に載たるを持たせて出來り、師直へ披露を願む、伴内ツンとして居るを視て密と袖の下より金包を握らせる、伴内急に氣を變へてエヘンと咳拂ひして目錄を讀に掛る、仲間バツサリと切り掛るを伴内慌てゝ目で止め若狭之助よりの贈物を讀上げ與惣兵衛にも座敷の飾り附拜見いたされよと世辭たらゝにて皆々門内に入る件に道具廻る此は殿中松の間の体なり、道具止ると向ふより桃井若狭之助おのれ師直眞二つと氣色込んで出來る、師直伴内を隨へて出迎へ昨日とは打て替り刀投出し犬突匐に成て詫をする、若狭之助も切兼て上手に這入る、師「あの馬鹿め余を切る氣と見えたが馬鹿ほど怖い者は無いと呟く折柄巓谷判官出來う「奥顔世より貴殿へ差上げくれよとの口上にて文函が參りましたと坊主を呼び文函を師直に渡す、師直文函を開て見ればさなきだにの歌を書きたる短冊を入れたれば偖は我が戀の叶

無鐵砲　札にて撃てる
商標特許第一二四九九號
此吹矢銃は在來の吹矢筒を改良なしたるものにして銃身を鋼製になし正確命中ならしむる爲め照星照尺（狙ひを附ける金）を設け上等仕立硬壺に附着し且口當は紫檀を用ひ導氣管は鍍銀製此管と銃身の間より矢を挿入發射し得るものにして用法は至極簡便なり矢の飛距離は肺の強弱と熟練の如何により五十間乃至百間殊に此銃は狩猟法の規定外にして免狀を要せず得春夏秋冬隨意に使用なすことを得て遊猟に適するは勿論獣猟に用ひ獣藥の費用を除き最も利益あり且又方今東洋多事の時に接し我戰勝國少年青年諸士の遊戯品とし射撃術研究の一助となり且つ衛生上に於て肺を健強になし實に社會有益此絶世なる最良器具なり

小鳥猟用吹矢銃

春猟　春は小鳥猟最も多き時なり椿の花に鶯集り野に鵜來り遊ぶ

甲號製長三尺八寸定價金參圓
乙號製長サ同上定價金貳圓五拾錢
吹矢百本に付定價金五拾錢
附屬品皮二拾錢矢入カバ五拾錢
遠國遲送は荷作り箱代金二拾錢に小包郵税百里以内二拾錢以上は四拾錢を要す
爲替振込は大阪船場支局○郵券代用壹割增

製造發賣元　木村商店
大阪市東區北久寶寺町三丁目中橋筋南入
關東特約店　十字屋
東京市京橋區銀座三丁目二番地
京都特約店　慈善新報社支局
京都市上京區三條通小橋西入壹番戸

酒のどくけし
さけのむべし懷中すべし
銀丸子懷中必用藥
清涼丸
酒毒清丸
病へイコー
酒
〜定價〜　小包　金五錢　中　拾錢
大　貳拾錢　別箱入　五拾錢
●のみすぎ●わるよい
●二日よい
○めかすみ○ひかつき○ねき下し○ひねのつかい○づつう○めまい○口中くさき○ひねはらいたみ
右の諸症には一種特別の良劑也
附言　酒によわき人或は氣分惡き時又は散財○宴席○觀劇○花觀○遊山○旅行○乘車乘船等のせつ男女共常に懷中に貯ひ置良劑也

本舗　大阪順慶町　長川眞七
卸賣元　通一丁目　同　博勞町　小山松榮堂東店
元取次　中筋東入　同　心齊橋　森玉林堂
通二丁目　同　道修町　賣藥卸賣會社
大販賣　三丁目　同　新町橋　妻鹿青松堂
西ノ辻乃　賣藥卸賣會社
名古屋市京町三丁目

はぬ返歌と立腹して「判官殿には斯る發明な奥方をお持なさるゆゑ自然出仕も遅刻するのじやと悪口せられ判官も堪へ兼て刀を拔き師直に切附る、スワ喧嘩よと築立の蔭より梶川與惣兵衛出て判官を抱止める、此へ諸大名出來り騒ぎ立つる間に師直眉間の疵を押へながら逃込ひ件にて幕

四幕目　鹽谷舘の塲　同城門外の塲

一鹽谷判官　市川染五郎
一石堂右馬之丞　中村福助
一藥師寺次郎左衛門　嵐巖笑
一大星由良之介　市川團十郎
一大星力彌　中村政次郎
一高松半助　市川團八
一竹森喜多八　市川舛藏
一矢間重太郎　市川團七
一小寺十内　市川舛六
一菅谷半之丞　市川幸舛
一堀部彌兵衛　市川栗三郎
一原郷右衛門　市川蟠谷
一顔世御前　中村富十郎
一腰元　市川舛代
一同　市川猿之丞
一同　市川八百枝
一同　市川百々次
一其他諸士大勢

茲は鹽谷判官の舘なり、幕明くと向ふより上使石堂右馬之丞藥師寺次郎左衛門出來る、主人の鹽谷判官、を初め斧九太夫、原郷右衛門、大星力彌其他諸士出迎ふ、石堂は判官今度殿中に於て師直を傷け禁を犯せし段不屈至極に付國郡を没取し切腹申付る者なりと言渡す、判官畏つて奥に入り水上下に改めて出來る、此間に諸士は切腹の用意をなす、力彌九寸五分を三寶に載て出來れば、判官刀を取上げて、由良之助は未だ參らぬかと尋ぬる事再三「トヾ今生にて面會せぬは殘念なりと九寸五分を把上げ腹に突立てる、此へ大星由良之助駆付來る、是を見て次に扣へし諸士大勢出來り主君の最期を惜ひ、判官九寸五分を由良之助へ形見に渡して絶入る、石堂は此通り上へ申上んとて歸る、藥師寺が城受取の役なれば判官が死骸取片付るまで奥にて相待たんとて入る、諸士は駕を舁出して判官が死骸を納める、此へ顔世御前腰元侍らい付きて出來り燒香の事あり、續いて九大夫由良之助いづれも燒香を終て諸士駕を舁て入る、顔世、力彌其他諸侍見送りの爲め附添ひ入る、由良之助、九太夫郷右衛門其他六人の諸士居殘り諸士は足利勢を引受けて城を枕に討死せんと主張する由良之助は城中に在る金を配分して思ひ〳〵に退參せんと言ふ九太夫も内實は其議を賛成しながらも陽は左あらぬ体にて「國家老の大星どのが其了簡では頼み無しと席を蹴立て歸る、跡にて由良之助諸士を近附け御馳の存念を明す、此へ藥師寺出來り「早く城を明渡せと」言捨てゝ入る、皆々は舘の名殘を惜みて入る、知せに付き此道具廻る

此は城門外の体、道具止ると向ふより力彌を初め諸士大勢菩提所より歸り來る、門内より由良之助、郷右衛門初め六人の諸士出來り皆々城を枕に討死せんと息込ひを制し止めて引込ませ、跡由良之助一人と成て九寸五分を取出し無念の件にて幕

五幕目　淺草辨天山の塲

一赤垣源藏　片岡我當
一神崎與五郎　嵐巖笑
一矢頭右衛門七　片岡土之助
一汐山の妻磯榮　中村富十郎
一居酒屋舛六　市川蝦蛄六
一同　市川大よし
一其他仕出し大勢

此は淺草辨天山にて募明くと鹽谷の浪士神崎與五郎編笠に面を隠し賣卜者に成て居る、其前に大勢の仕出し立掛り居て卜ひを見て貰ふて居る、種々可笑味など有て這入る、此へ是も鹽谷の浪人矢頭右衛門七出來り卜ひを頼み思はず與五郎の顔を差視さて「與五郎殿か「右衛門七殿かと互ひに名乘り合ひ是より兩人にて鹽谷家滅亡の事に及ひ、御恩を受し者共は密かに主君の鬱憤を霽さんものと心を碎くに合點ゆかぬは赤垣源藏酒に性根を奪はれて毎日此界隈を徘徊なし居るが本心よりの放埒か但しは敵に油斷をさせる爲か若し是へ參らば試しくれんと兩人打連て這入る、此へ鹽谷浪人赤垣

すきとほりたる水白粉の大王は阪井商會のつゆおしろいなり
優等うす化粧
つゆおしろい

定價　大瓶拾五錢　中瓶拾二錢　小瓶八錢
◎つゆ白粉はにほいの親玉
◎つゆ白粉は化粧の親玉
塗りてほどよく白くなる事眞の天性の色白きが如し
小野小町　大阪東區常盤町一丁目　阪井商店
方是非御買なされ　院足と云ふ顔を御望の
本舗　同　南久寶寺町三丁目　小栗小三郎
發賣元
◎賣捌所全國到所小間物店及賣藥店に有り

滋養強壮
富士印葡萄酒
大阪　田中商會　勉強
發賣元

源蔵酩酊せし体にて蕎賣屋升六、同じく八七後より附て出來り店「辨天山まで行けば勘定をして遣ると卯やつたが〳〵「どうぞ拂ひをして下さいと催促する、源蔵は一文も持合さずとて斷る、折柄此へ汐山左衛門の妻磯菜（源蔵の妹）淺草觀音へ參詣に來りて通り掛り此体を見るより蕎賣屋の拂ひをして遣り両人を歸し源蔵に向ひ意見を爲す、されど源蔵が正体無きを見て呆れて立去る、此へ以前の與五郎、右衛門七出來り源蔵に向ひ意見を仕やうと意氣込む件にて幕

六幕目　汐山左衛門屋敷の場

一　山左衛門　中村福助
一　赤垣源蔵　片岡我當
一　矢頭右衛門七　片岡土之助
一　若黨軍助　片岡我藏
一　仲間八内　市川猿太郎
一　妻磯菜　中川富十郎
一　腰元梅が香　市川八百枝
一　同紅菜　市川猿之丞

此は汐山左衛門が屋敷なり、折しも極月の事とて雪しきりに降れば腰元梅が香、紅菜の両人は折助の八内と共に雪達摩を拵へながら源蔵の事を惡く言て居る折柄若黨軍助出來り「又しても奥様の兄御様の薩口チト嗜んだが宜いと戒める、是にて腰元八内は奥へ入る、此へ前幕の赤垣源蔵貧乏德利を提て出來り「某も今度西國方の大名に召抱へられ近々出立するに付お暇乞に罷出たりと言ふに軍「あなたの様な呑んだくれを何で抱る大名があるものぞと言籠る、此へ磯菜出來り「又しても酒に性根を奪はれて此体は何事ぞやとしきりに意見を加へ「其御酩酊で其人にお逢なされても無駄なれば今日は此儘お歸りなされよと遮る、源蔵も立腹して、折角左衛門どのに逢ひ暇乞ひに一酔せんとて酒まで持來りしものを此儘歸れとは不埒な妹今後と兄でも妹でも無いぞ、肉身の縁切れば此家に用無き源蔵罷り歸ると座を立て出行く所へ汐山左衛門槍提げて出來り源蔵目掛て突て掛る、源蔵鳥渡立廻つて槍を刎返す、左衛門カヲリと槍を投棄て「扨は是迄酒に心を奪はれし体に見せ掛たの

も亡君の仇を討たん爲上な餞別に進上申す品てそあれと高の屋敷の繪圖を出して渡す、源蔵も押戴き「御賢察の如く身拵放埒と見せたるも敵に油段をさせん爲にて只今磯菜と兄妹の縁切つたるも後に難儀を掛ぬ下心、時刻移さばハヤお暇申すと別れを告げて立出る件にて幕

募引附けると此へ前幕の右衛門七出來り「ハヤ一同打揃ふたれば早く來られよと言ふに源蔵も勇み起て向ふへ入る跡シヤギリ

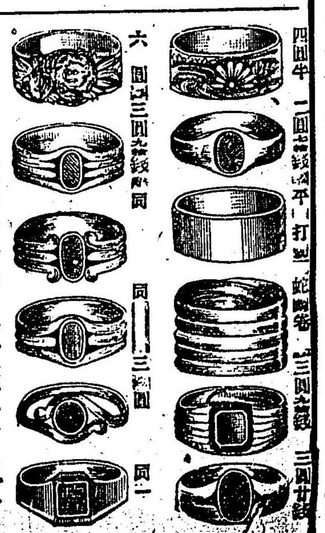
廣告

團十郎齒磨　白牡丹

（錫入金五錢　袋入金二錢）

團十郎齒磨は原料を精選し品質最佳良なり
團十郎齒磨は國州の名と共に日本第一なり
團十郎齒磨は國州と共に此浪花へ乘込たり

本支店　東京淺草須賀町　三升堂本舗
東京新町北通道者横町　三升堂支店
大阪南區心齋橋八幡筋　森玉林堂
特約大販賣



四圓半　一圓半錢平打　蛇卷　三圓六錢　三圓廿錢

六　圓五圓九錢　同　同　三圓　同一

印臺指環彫刻料一字三拾錢平打二分巾壹圓貳拾錢半分毎貳拾錢增蛇卷二卷壹圓六拾錢一卷毎七拾錢增

上等職工千五百名を以て指環鎖時計煙管金具裏座緒〆パイプ簪中差櫛根掛帶止ボタン腕環眼鏡金盃等世の中にあらん限りの細工をなす此製作品標本畫は郵券四錢にて七百余畫正價付美本を呈す

品質見本に限り正價五拾錢の羽織紐環を三拾錢に壹圓貳拾錢の指輪を九拾八錢に特別割引呈送す切斷して實驗あれ取次約定書御望の方は郵券貳錢を要す

本店　東京日本橋通三丁目大通
支店　大阪心齋橋通北久太郎町
人造金鳳堂

皇后陛下御買上有栖川宮小松宮御賢所御用を蒙る

貴女の水

効能

きめをこまかに○色を白くしほの○にあせばびの○そばかすをキレると至妙試み五へ

製造元　東京四ッ谷傳馬町大横町角　**咸亨堂主永田義原謹製**　◎元弘

農商務省商品陳列館出陳

正六位勳六等理學士平賀義美先生御賞賛香料品獨逸製特別注文

優美高尚匂飾

匂飾

フラグランスは御婦人方は襟又は帶に飾り男子の御方は時計紐に飾る香氣の高尚なる事はローズ、スミレの純品なるを以て御承知あられかし

尚御衣裳香氣用あり

匂飾特別金廿錢　**衣服**及ハンカチ十五錢三十　チーフ用八錢五十錢等

◎寄捌は全國藥店及小間物店に於て販賣せり

皮膚病丸

◎よこねかんそう顔くびのでもの皮膚病一切の良藥はだの色を白くす小形拾錢中壹圓也

米國製最優等

コヒー

各種

◎特約代理店フラグランス　安々堂支局　敬白

志賀藥劑士製品

◎**蘭麝水**

本品は芳香を有する白粉下にして朝ゾ顔又はくびに御塗り遊さば自然ときめをこまかに色白くすると請合也價は小瓶五錢大瓶十錢

發賣本舗　フラグランス　安々堂支局

大阪淀屋橋擬修町北入東側

ベルツ博士發明

大阪淀屋橋筋　フラグランス本店

貴女の水は**博士**の御發明にして**貴顯淑女**の御愛用せらるゝ所なれば効能の確實なるは云ふ迄もなく近時東京に於て一大好評を博し販賣高の益々多大なるを羨み奸商輩のにせ物續々顯れ居る時節柄名義に能々御注目御使用あらんことを厚く希望仕候

試み五錢　中瓶十錢　大瓶五十錢　郵券代用　一割増事

●りん病せうかち藥の大王

時候變りに起るりん病、傳染て間なきりん病は勿論三年五年十年の永きりん病も男女共に痲病丸を呑み速かに全治根を切り再び發の憂ひなかるべし近年珍物あり（大阪安東製）と御指名を請ふ、洗藥一廻分には洗ひ器械を入れ置たり

◎大阪安東製痲病丸代價五錢十五錢三十錢五十錢也

◎阪安東製ガロブロ散代價二日十錢一廻三十錢也

●凡ソ交合上ヨリ發スル梅毒諸病ノ豫防具トシテ天下一品タル

やまと表はルーテサックを再精製せしもの

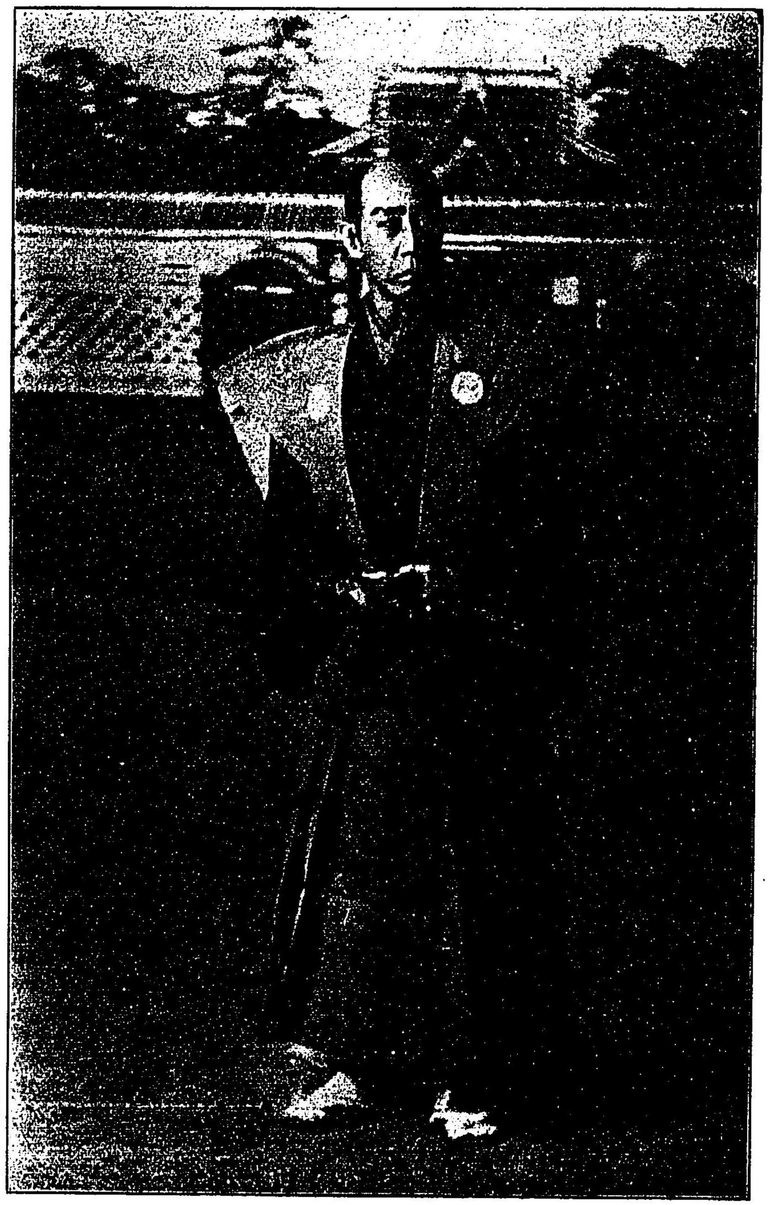
にして天然の皮膚と少しも異なることなく肉色を帶び伸縮自在、自ら指頭を觸るゝも其有無を識別すべからず而かも感悟は更に變ることなく、價も亦至って安し、左れば此やまと衣は身体保護の要具にして、衛生上無〜て叶はぬものと云ふべし

●正價十個入三拾八錢送料四錢五個入二拾錢送料二錢御送金切手代用一割増

大阪平野橋西詰南入

發賣本舗　**南陽堂藥店**

●賣捌店は各地小間物店及藥店にあり



支屈館元板

國十郎の大星由良之助

商標

金貨印

滋養葡萄酒

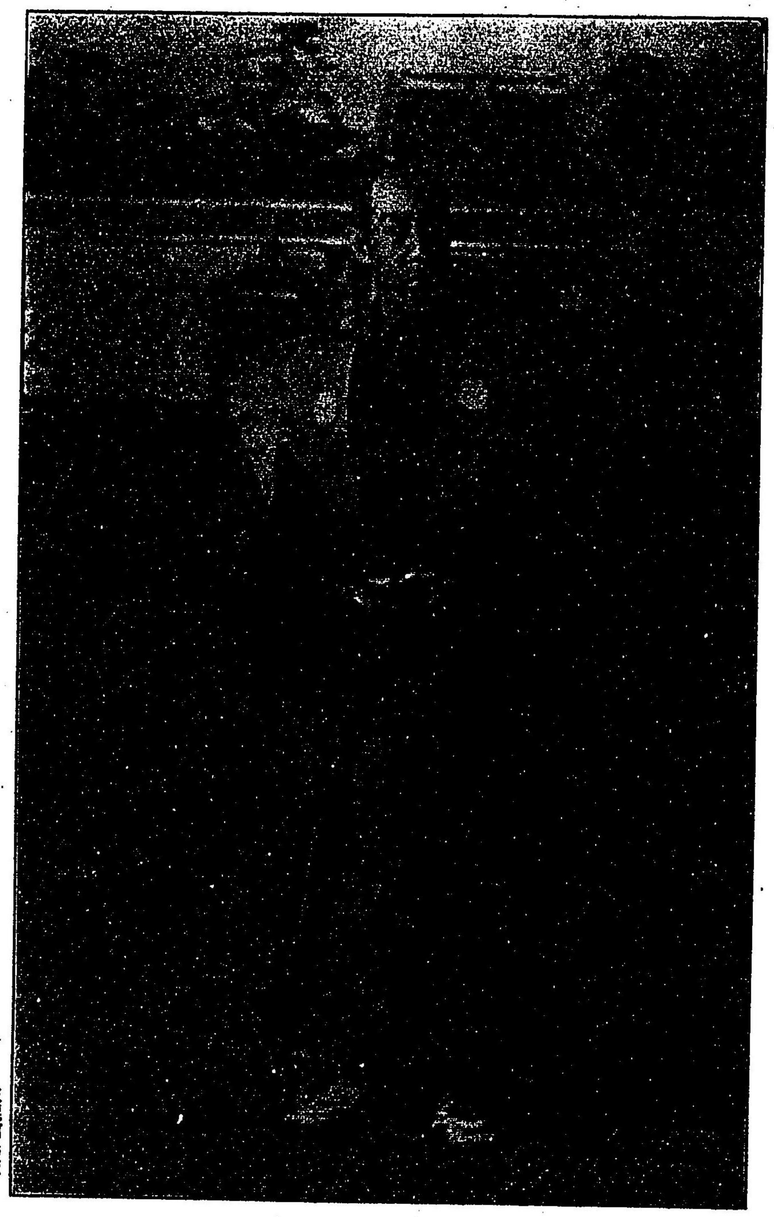
發賣元　京都　ユニオン合資會社

關西一手捌

山城農產株式會社

大阪出張店

下御賜ヲ以テ謹奉希望候
大日本京都
ユニオン合資會社
發賣元
賣捌所ハ全國到ル處ニアリ御求ヲ乞フ



玄鹿舊元版

圖十郎の大星由良之助

商標

金貨印

滋養葡萄酒

發賣元 東京 ユニオン合資會社

關西一手捌 山城農產株式會社

大阪出張店

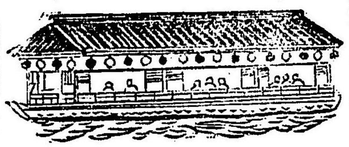
發賣元 大日本東京 ユニオン合資會社

摂津灘御影町　渡邊徹釀造

有權商標
羅生門印

大阪東區伏見町堺筋角
關西一手捌○一酒店

謹合
大阪天滿北野金澤
大ゆうじ門前
萬種物商
小うり
郵便切手代用一割增し
八百屋茂七



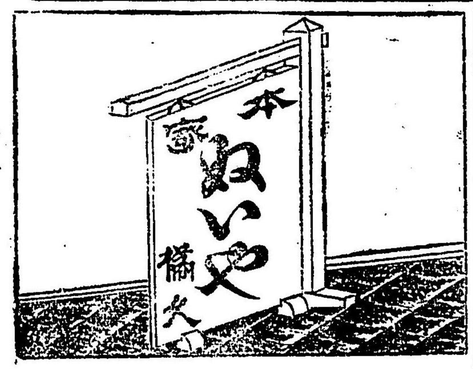
長堀橋南詰
すき
鳥鹿

木院工事落成三月五日ヨリ開院
一般患者ノ診療幷入院ヲ諾ス
診察時間
通院　自午前八時　至正午
　　自午後六時　至九時
往診　自午後一時　至六時
急患ハ此限ニアラス
私立岡病院
大阪西區江戸堀南通二丁目阿波殿橋南詰東入

米國製
ウードウオルス氏
●ワーナフセバレー　●ホワイトロース　●ズバニスリラック　●バイナーレット
香水
印
皆野商會
ウードウオルス氏製品日本一手販賣所
大阪市西區道修町二丁目
森政七

代理店
大阪南區心齋橋八幡筋北　仁壽堂分店
全　東區道修町三丁目　賣藥却賣會社
全　東區道修町二丁目　長岡彌太郎
全　西區道修町二丁目　宗田友治郎
全　西區北堀江辰江亭向　豐田商店

代理店
東京日本橋馬喰町一丁目　平尾賛平
京都市四條通柳馬場　一井宗兵衛
全　四條通御旅町角　池松幸助
名古屋鉄砲町一丁目　宮田辰治郎
全　針屋町三丁目　小足茂兵衛



神事祭禮
劇場舞臺　幕幟衣裝製工商
其他繡一式御好次第
右ハ今般各國諸君子樣從來御愛顧御禮旁擴張之爲非常安直ト叮嚀ニ奉差上且至急御注文多少拘ズ早速御問合可申候舊倍御引立之程奉願上候
大阪南區西濠水町佐野屋橋南
橋久　奥田久兵衛

胃病根治確證藥

胃病根治劑

胃病根治確證藥

本劑は世にありふれたる一時おさるの制酸劑と異なり必ず其病根を斷つ確効無比の新劑にて數年に渉れる頑固の慢性胃病にても三週分を用れば著つて壯に氣力を神を爽快活潑にする日本唯一の靈劑なれば他藥を用ひて治せざる患者は速に此根治的の新藥を試服して驚くべき不思議の奇効を知れ

●價參週一圓二週七拾錢一週卅五錢（郵送料大八錢中六錢小四錢を要す）切手代用は必す二割増しの事

即効顯はる

根治証明

貴店益々御盛大奉賀候扨説小生儀從來數年間頑固なる胃病にて困難致居候處先日貴店にて胃病根治劑參週分相求め爾來服藥之二週を過ざるに日に〳〵精神爽快に相成り已に本日に至りては多年の重症も全く根治致し候實に此の良藥こそ全世界無比にして名實相叶ふ靈劑と奉存候向後小生の知己に胃病者有之候節は小生活圖告者となりて是を救助致すべく候先は感謝狀迄如斯御座候との禮狀を寄送せしは大阪府下三島郡五領村字梶原一乘寺住職松尾探玄氏なり其他如斯根治的謝狀山の如し來り見よ示す

專賣　大阪市淀屋橋北詰東側　日新補藥局支店

新奇發明酒家の寶庫

（附錄）味淋、醬油、酢醸造者の大有益案内

右今回披露の爲一部限り酒造家及前記載の營業者にして望の方は郵券四錢相添申込次第直に送呈す速に見よ眞に營業上一日も欠くべからざる確實の秘訣なり

無代進呈

大有益……是非ッ

早く應用せざる大金儲あること確證す

●申込所　大阪中之島壹丁目　日本授産館分館

根治

胃病根治確證藥

勝軍葡萄酒廣告

故陸軍大將大勳位有栖川熾仁親王殿下ノ賞贊ヲ得

世界第一

滋養親玉

海軍大將從二位勳一等西鄕從道閣下ノ賞贊ヲ得

醸造發賣元　神戸市榮町四丁目（洋酒問屋）吉川商店

新規御開店御ノ方ニハ特別懇篤ニ御相談可仕候尚洋酒食料品及鑵詰類格別勉強仕候間多少ニ限ラズ御注文願上候也

尚空瓶新古賣買仕精々御便利相計可申候

印判師

大阪博勞町堺筋　大野久吉

商標 N

内外メリヤス類

絹綿ハンカチフ首環卷

大阪市心齋橋筋順慶町西ヘ入

藤原商店

和合香水

大瓶　金六拾錢

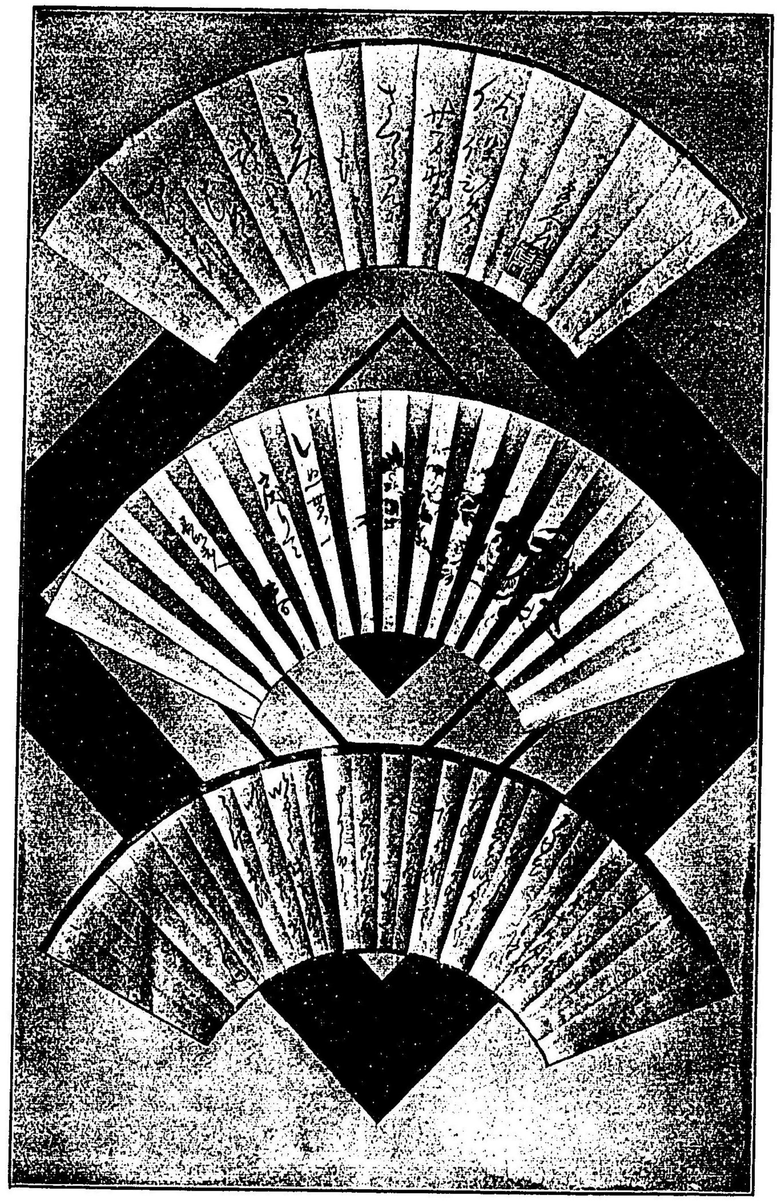
小瓶　金貳拾錢

金三錢

製造本舗　大阪市南區周防町御堂筋　和合堂

發賣所　同南區西清水町佐野屋橋　和合堂分店

●全國到る所和洋小間物商賣藥店ニ販賣セリ



面扇畫書郎十國 目代九 目代八 目代七

商標登錄

大阪時計製造株式會社

大阪西成郡豐崎村大字南長柄番外四十六番地

弊社製品ハ永久無限ノ保險ヲ附シ自然ノ損所ニ付テハ無料修復ヲナス

意匠彫刻御好ニ應ス

最寄販賣店ニテ御購ヒヲ乞フ

既ニ内外國大博覽會及共進會品評會ニ於テ有功進歩金銀賞牌及賞狀數十ヲ受ケタリ

各國博覽會優等賞牌受領

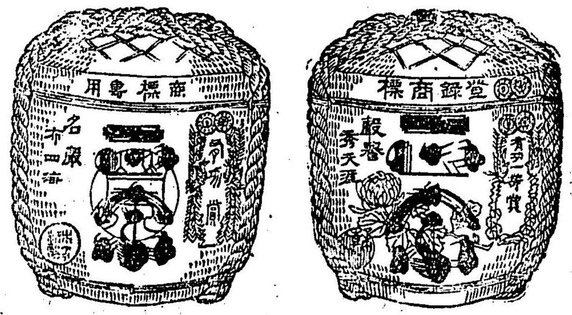
特約發賣元

大阪天神橋南詰

銘酒問屋

入江彦次郎

登錄商標　商標有權



菊正宗印　㊫正宗印

嘉納本家鑑製　入江一手販賣

中幕　大森彦七

一大森彦七盛長　市川團十郎
一道後左衛門近信　市川八百藏
一大森臣左源太　市川團七
一道後の臣　市川升藏
一仝　市川升六
一菊間五郎太　市川幡谷
一楠千早姫　市川女寅
一其他郎黨百姓等

道一幕は櫻痴居士の著作にして嘗て東京日本橋區通一丁目春陽堂發行の新小説に掲載せしものなり、茲に記したるは單に其梗概に止まれば詳しきは新小説に就きて看玉ふべし

此は伊豫の國松山近邊山道の体にして舞臺上寄に古き地藏堂ありて其軒に鬼女の面の奉納の額を懸けたり、夜中の景色宜し〳〵幕明くと菊間五郎太供を連て出來り舞臺にて百姓三人の來るに逢ひ百「久谷の御領主菊間様で御座りましたか夜中の事とて失禮いたしましたと、是より百姓は明日から三日の間御堂の庭にて猿樂の催しあれば夫を見物に行く〳〵積りなりと此節の臺辭を話す　五「去年五月大森彦七どの湊の合戰に南朝方の楠正成に詰腹切らせた恩賞に數多の知行所賜はりたる其祝ひに猿樂を催され大森どのにも出て舞はるゝ筈だと語る、百姓は同行を頼む菊間は承諾して皆々を連て入る是より「頃は北朝建武三年春の暮二十五日の小夜深けて床の淨瑠璃になり地藏堂の扉を明けて楠の息女千早姫出來り　千「思ふに違はず大森彦七此道へ掛るよな其通りを待受けて額の鬼女の面を取下し袂に入れて病人の体を粧ふ、此へ道後左衛門馬上にて家來を連て出來り　道「失なる女姓は何人ぞと尤められ姫は「播磨路の者にて四國の靈場を巡禮なす者と言ふ　道「播磨路と言るゝが凝ふ方無き都方察する所芳野の都の落人が此國の樣子を窺ふ南朝方の間者か引立て八釐議に及ぶ所なれと見るから優しき上臈姿身が屋敷へ同道いたすと嬉れ掛るを姫は振拂ふ、左衛門は猶も引立て行かんとする所へ大森彦七家來に唐櫃（此中には猿樂の衣裝を入れあり）舁せて出來り斯と見るより　九「此塲の樣子は如何にと尋ぬる左衛門は南朝

英國醫學博士ペリンジヤム氏發傳
一名吾妻麝香
菊水
商標
雙龍
定價瓶金十錢。小瓶金五錢
製造本舗　大阪市東區平野町心斎橋西、
芦田芳香館

雙龍
商標
エスエフ印
特効まみやき
大阪東區瓦町二丁目堺筋南入
本舗　古川開榮堂

美術新意匠
羊羹
かのこ
別製羊羹
金帯羊羹
賞金
勉強正札御誂物別段念調進可仕候
關西府縣聯合進會
日本美術展覽會
其他八界ス
大阪心齋橋通
五色筋南入
五色堂

の間者なりと言ふ、彦七つ〳〵姫の顔を見て少し思案し態と驚きたる体にて「是なる女は什吉の神職津守の息女鈴姫と言へる者にて某を尋ねて當國へ下りし者なりと言嘯める、左衛門も不審とは思ひながら、彦七の武勇を恐れ「疎忽の儀を振舞ふたりと謝しる入る、姫は彦七に難儀を救はれし體を逃べ「御堂の猿楽拝見したさに參る者と語る、彦七「其儀ならばイザ御同道せんと姫を同道して上手に入る、跡知らせに付き地蔵堂を上手に引て取る、

舞臺は奥深き山又山の遠見所々に青葉殘んの櫻、上手に山川の流れ宜し〳〵、是より常盤津の浄瑠璃になり此へ大森彦七、千早姫を同道して出來り溪川の水嵩まさりしを見て「某しが御身を負ふて渡して進せやうと言ふを姫は辭み徒歩にて渡らんとする、流れ激し〳〵押流されやうとするゆゑ彦七ト背に負ふて渡る、川の中程にて姫ハ隠し持たる鬼女の面を冠り懐剣を抜きて彦七に切附ける、家來は之を見て「變化とや〳〵と逃て入る、彦七姫を取て押へ「名乗を上げよと言へども姫は只首討てよとばかりにて名を告げず、彦七は照る月影に篤と眺め「眼元鼻筋とも正成どのに生描し疑ひも無き楠家の御息女と星を指されて姫も是非無く「イカニモ正成の姫、千早何ゆゑ有て去年五月溪川の合戦に父上には詰腹切らせ菊水の寶剣奪ひ取て立退きしぞ、其恨みを霽さんと待設けたる今宵の出會叶はざる其時は返り討は兼ての覺悟尋常に一命をられよと健氣なる覺悟に彦七も感心なし是より溪川の合戦に正成最期の狀を物語り「イデ〳〵盛長介錯せよと仰せ有りしを爭で御生首を掻き奉るべき、辭退なし御生害の後に御首級を賜はつたりと語り、又菊水寶剣は足利殿の實撿に供へて初めて先帝より賜はつたる寶剣なりと知り將軍家の御沙汰にて預かり有りと語り千早姫に疾々河内へ歸られよと勸める、姫も今更女心の淺果なりし事を悔ひ「此場にて妾を殺してよと頼めども彦七聽容れざれば姫「此上は淵の底にも死骸を隠し恥を包むが身の言譯と起去らうとする、彦七暫しと止め「寶剣お譲り申さんと言ふを姫は却て「足利殿より預りの寶剣ならずやと非難する、彦七思案して「幸ひなるかな鬼女の面、正成どの〳〵怨靈現じて悪鬼となり寶剣奪ひ去つたりと披露せば障り無しと言ふに姫は添けなしと再び鬼女の面を冠り唐櫃に入れたる猿楽の衣裳を被ぎ鬼神と成て、彦七より寶剣を譲り受け何所とも無く立去る、此へ道後左衛門先に逃込んだる彦七の家來を連て出來り「彦七どのには變化に出會はれたると聞き加勢として駆付たりとて正体無き彦七を抱き起す　彦「おのれ正成此寶剣に執心殘り鬼女と成て奪はんとやと虚空を睨む〳〵左衛門　傍に落たる姫の袿衣を見て扨はと氣取る、彦七は俄かに發狂したる体にて左衛門の馬に乗り虚空を招きながら向ふへ這入る件にて幕

宮内省御用品
第大第第四回
二阪六回回内
回市博内國
水區覽製
産業益勸
博物品博
覽新覽
會會會
各有功賞受領

酒醸問屋　大阪市南區千年町　本店　伸井安兵衛

綿チール問屋　大阪市南區御堂筋北浜町周防町北入　東店　伸井安太郎

◎金銀諸寶石入指環
◎水晶印材類並ニ篆刻
◎水晶眼鏡類
◎名石緒締玉
◎根懸玉簪玉類
◎水晶花瓶香爐
◎茶器文房具
其外數品
且金銀細工諸石琢磨御好に應し速に調進仕候也
大阪高麗橋一丁目
水晶舗　小關圓藏

化粧香水　定價十錢
製造本舗　塩町北　山本勉强堂

東海名産　東京名産　本場東海名産　初祖
味附海苔　淺草のり　福神漬
東京三井製進物用適當　四十五錢ヨリ五十錢迄
東京各名家精製上等品
鏑詰紙包体裁求メニ應ス
東京中井製造香味特有
定價金廿錢十五錢拾錢
東京池之端酒悦會社製
價金貳拾錢○拾錢

うちみくすり　リウマチス
ヨード精
定價金五錢拾錢
保証販賣
東京市守田治兵衛
大阪心齋橋北詰
山本勉强堂

大評判
定價弐錢五錢
大阪北浜二丁目
山本勉强堂

重病の病者も神效百發百中なる難病○

を問はず服藥せば速に無病壯健の幸福を得る事保證す

◎肺病患者全快禮狀

愚物敬呈陳者迂生愚女辰野氏肺患に罹り近傍の名醫の治療及各國名藥を服用するも更に其効を奏せず病勢益々盛んとなり、臥床久敗非常に困難仕居候處、貴店御發賣の貞正六神丸は該病に特効ある事傳聞仕候に付直ちに廿粒入一包御送附に預り、該藥到着するや否や早速に服藥致させ候處日毎に其効顯はれ恰も清水で洗除するが如く快愈仕り家内一同大に喜悅罷在候是れ偏に六神丸の神効に依ると存じ實に奇大の大妙藥なると感謝候

岡山縣備中國哲多郡油野村　普門文姓印

龜田利三郎殿

◎胃病患者必治報知

拜啓陳者拙者義長年間胃病に罹り有名賣藥を種々服用せしも其効能少く誠に困難の折柄當郡中三阪村佐川覺殿より承候に貴店御專賣の貞正六神丸は特効著敷候由故早速十粒御送藥を乞ひ服藥せしに忽ち其効顯れ今日にては全快の幸福を見る事を得て實に喜悅の至に御座候是貴家專賣六神丸の御德と奉感佩候先は右御禮迄早々敬白

福島縣盤城國石城郡下三阪村　永山福太郎印

龜田利三郎殿

▲本舗六神丸は流行病蔓延の際京都府知事男爵山田信道殿より賞狀木盃を下賜せられたる妙藥也

特効主目

◎左記の病者は必治する事保證す

◎肺病◎胃病◎風邪◎腫物一切

「即ち癰疽疔の類」◎心臟病◎子宮病◎霍亂◎熱病◎其他流行諸病

◎赤痢◎虎列拉病等には驚くべき速効あり且つ小兒急慢驚風に尤も適當す

○本舗開業以來既に五ヶ年を經其間六神丸の卓効により種々の難病を救ひたる事幾萬なるを知らず然るに近來奸商猥大に僞造品を製し本舗同樣の品なりと自稱し諸君を僞に多し唯其効なきのみならず、害を與ふ事少小ならず、患者中僞造品の爲に貴重の身躰を害せられたる者日に月事屢々聞けり乞ふ宜敷赤井筒の登錄商標及び龜田利三郎の文字並び上包別製漉込の龜と井筒に注目せられん事を乞ふ

京都五條通室町西入南側

大日本發賣本舗　龜田利三郎、

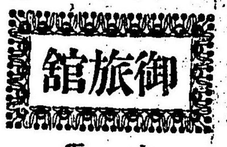
定價

一粒入	金十錢
十四粒入	金四十錢
五十粒入	金壹圓
百粒入	金參圓
	金五圓

○遠國の注文は京都五條郵便局拂渡し爲替に限る（郵券代用一割增）

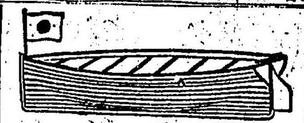
○賣捌所は全國到る處に有り若し無き時は本舗へ御申込あれ遞送無料にて送藥す

劇場御案内



大阪
梅田停車場小櫻橋北詰
大阪歌舞伎座筋向

梅櫻樓事
谷豐一



弊店儀從來バッテラ製造販賣仕候處諸君之御愛顧を以て年增盛大に趣候段難有奉厚謝候然而從來の工場に手狹に相成依て一層業務を擴張し左の場所に於て專らバッテラ製造に從事し精々廉價且つ堅牢に調進仕候間陸續御注文ア古船破損塗直致升○古船賣拂分買升

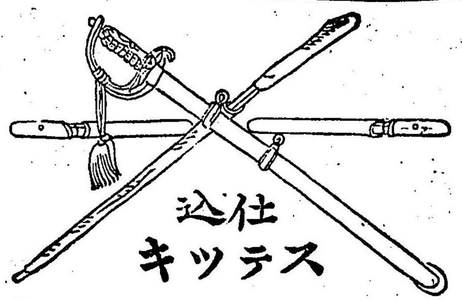
大坂西區松島町千代崎橋西詰北入

バッテラ製造所山下龜吉

大坂西區千代崎橋西詰南角

同支店

元祖　大阪順慶町四丁目　逸見販賣店



仕込
キッテス

抑も宇内無双とし て萬國に聳ばるゝ大和魂とは帝國臣民か特有する無形の精神にして其形に顯るゝを刀劍と云ふ嗚呼此の精神廢退せば復た國家なしと云ふも敢て過ちなきなり本店茲に感ずる所あり多年苦心經營し刀劍をして自由に販賣するの義を政府に願し漸く明治二十九年十一月許可を得たり爾來引きも切れず御注文に接し實に國家の幸福ひ本店の光榮不過之と存候希くば江湖愛國の諸君子本店の微志に御賛助を賜はゞ尚陸續御購求の上國家及ひ御一身の健全を保たれんことを謹告候也

追て錄磨仕立等の義は本店の責任として深く注意致居候に付御來駕被成下度候敬白

大坂市心齋橋南詰東側

佐々木支店

同　向角諸金物商

佐々木峰造本店

塗特繪看板所

大阪博覽會井池角

直弘堂永田直吉

◎諸看板其他好應安價販賣

轉居ノ御披露申上候

大坂市北區中之島宗是町
（大坂病院東横手）

辯護士　大川敬則

諸糸組物商

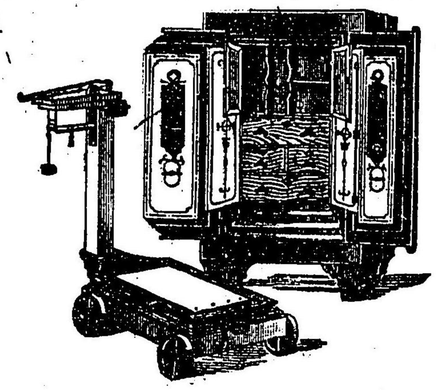
中井平安堂

大阪南區戎橋南へ入

專賣特許安全かみそり

發明　東京日本橋區小泉久右衛門
製造　東京新材木町
自分の頭髮、髯眉毛等を剃るに危險の憂なく迚なり但し革砥附屬しかみそりの研き法も巧拙なく誰にても自在なり
大阪東區平野町中橋筋角
關西一手特約　伊藤喜商店
注意　定價上等金五拾錢、並等金二十五錢
◎但し他所へ見本郵送は定價の外ゟ上四錢並二錢要す郵券代用一割增

◎金庫火災保險附盜難防禦
堅牢優巧各國無比金庫
東京市竹内次郎製造



●金庫又は衛器詳細繪圖定價表御望の方は申越あれ郵送す
東京竹内製金庫衛器關西一手販賣所
大阪東區平野町二丁目
中橋筋角　電話三三四　伊藤喜商店

注意◎當大阪演劇會社興行中幕間諸君御便利爲右諸品及●外に尚いろ〳〵有出張陳列販賣仕居候間御購買を希ふ　本舗　大阪平野町二丁目　伊藤喜商店

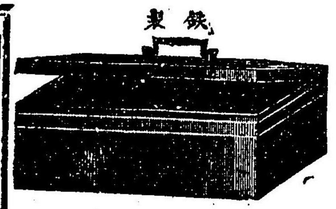
東京足袋全國最優等品

明治四十年內國勸業大博覽會に於て第一花紋賞牌第二褒賞第三有功賞牌第四有功賞牌を於全國五二會品評會に有功賞銀牌
御足袋
東京本所緑町鎌倉屋長三郎
上兩木綿「十文七分廿三錢、十文中廿二錢五厘、十文三分廿二錢、十文廿一錢五厘、九文七分廿一錢、九分中二十錢五厘、九文三分二十錢、十九錢五厘」羽二重金巾は右定價より各一錢宛增し●目倉箱は各七錢宛增し
大阪平野町中橋筋角
特約販賣　伊藤喜商店
同　川村履物店
八百屋町南本町南

東京製絹糸組類
當世流行組織糸質色染精良
代價格別低廉大賣所捌
大阪市東區平野町通二丁目中橋筋角
伊藤喜商店

◎特許頭中付備　ふけとりぶらし
一箇定價金十八錢を論は
大澤寅藏製
右は東京下谷區
關西特約　男女ぜず頭に髮毛の要の品なり
大阪平野町中橋角　伊藤喜商店

◎堅牢輕便吹良手提鐵筥　各家各自充も大必要用具也



此携造は全部鐵製にて側面に西洋錠を嚴に設け掩蓋の頭に洋白の提銀を附着し最上の漆塗りにして蓋及び側面四方に金線を曳き高尚なり
右は各官衙、役所、學校、社寺、銀行、會社、汽車、船舶、農工商各業及び其外各自に平常座右又は秘し置き、金錢、通帳、證書、諸株券貴重の物品等を藏し收出に簡便にして堅牢を兼用せし一名安全箱とも云ふべし。其直段は頗る廉なり即左に

番號	幅	横	深サ	一個定價
第一號	一尺一寸	八寸五分	四寸五分	金三圓五十錢
第二號	一尺	七寸五分	四寸	金三圓
第三號	九寸	六寸五分	三寸五分	金二圓五十錢

但運送料日本全國一般一個に付金二十五錢なり
手提鐵筥販賣元　伊藤喜商店
大阪平野町中橋筋角

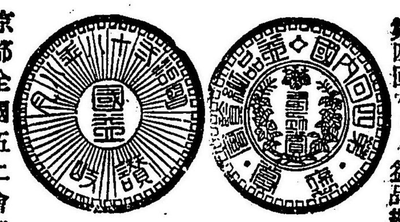
寫眞技術士西脇紹次君著述
寫眞之秘密
●本書ハ寫眞之秘術ヲ平易ニ簡明ニ此道ニ心ナキ素人ガ一讀ノ下了然タラシメ此道ニ營業ヲ企ル人ハ素ヨリ山川ノ明媚風土風俗ヲ掌上ニ攝影化學的其他百般技術ノ應用ヲ試ミント希望セル士ハ一本ヲ左右ニ繙キ遊戯的職業トシテ其遺利ヲ多ク高尚ナル遊戯トシテ將來如何ナル發明ヲ企圖セルヤモ計ルヘカラス思フニ本書ノ世人ニ稗益ヲ與フルコト實ニ尠ナカラサルヘシ
◎注意　本書ハ著者ノ責任付ニシテアクマデモ傳授ノ勞ヲ取ラルヘシ
正價一部金十五錢　郵稅二錢
大坂東區順慶町心齋橋筋
發行所　矢島誠進堂

名產花瀨
浪花漬
大坂天王寺西門北字六万体
六万堂
宮內省御用

商標
米國醫學大博士クリックス、コック先生方劑
毛のはへる薬
定價　大瓶金壹圓五拾錢　小瓶金壹圓
製劑本舗　大阪市西區京町堀通五丁目
渡邊松南堂

◎無効の節は金百圓進呈　謝金一月節分各金三圓宛
◎送金爲換戎橋振込靜省堂宛照會は郵便切手封入に限る
世界唯一定期米株日々の高下變動豫顯
◎注意◎當豫顯は各地の米穀取引所に用ゆる事を得る神妙玄奇の秘法添へあれは大勝利受合
大坂市南區長堀橋通二丁目十四番邸　靜省堂

有功壹等



京都全國五二會縱覽會褒狀受領
第五回內國々益品縱覽會有功一等賞受領
第三回內國々益品縱覽會褒狀受領
第四回內國々益品縱覽會有功一等賞受領

諸地金商
幷ニバケツ
大阪市南區安堂寺町一丁目
電話四七四番
頭司半兵衛

宮内省御用

登録商標

龍野醤油赤穂屋製品
專賣元祖荒牧屋商行

本品ハ開業貳百有余年以來醸造ノ經驗ト原質ノ特選ニ依リ永年諸君ノ御引立ヲ蒙リ追日販路擴張ノ域ニ趣キ候段深ク奉厚謝候猶一層諸般ノ改善ヲ計リ勉勵誠實ヲ旨トシ御眷愛ノ榮ニ酬ハン事ヲ何卒倍旧御引立之程ヲ伏テ奉希上及敬白

第三回内國勸業博覽會有功賞牌受領
第四回内國勸業博覽會有功賞牌受領
全國醤油共進會賞牌受領

醸造主　播州龍野　原田宗兵衛
專賣主　大阪伏見町　荒牧善助

薄雪軟らかい

大阪市南久寶寺町二丁目
小間物問屋　奥村友七

賣捌所は全國到る所の小間物店及賣藥店に販賣せり

極大瓶拾三錢
大瓶拾錢
中瓶七錢
箱入大瓶二拾錢
箱入中瓶三拾錢
箱入小瓶二拾錢
袋入拾錢
袋入貳錢
箱入三錢
罐入五錢
煉拾貳錢

本舗販賣ノ薫物各種ハ総テ品質ヲ撰ヒ精製シ專ヲ廉價ニ販賣仕候間多少ニ不限陸續御注文アラン事ヲ伏テ奉希上候

尚近來紛敷粗惡ヲ販賣スル者アリ御購求ノ節商標ニ篤ト御注意ヲ乞フ

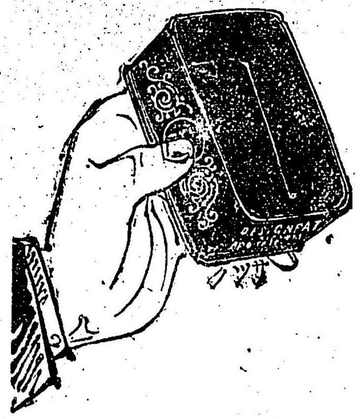
●定價表及販賣規定御入用ノ方ハ郵券封入又ハ往復端書ニテ照會アレ

●販賣所全國到る處にあり御求の節商標御注意

支那報元版

圖十郎の幡隨長兵衛

滿天下に未だ類比なき便利の法の化粧石鹸發賣廣告



（箱入娘の効能と特色）

滿天下の貴婦人紳士君此箱入娘は拙者が多年の丹精にて仕立賜たる別品なれば香氣の馥郁たる品質の美なる比色を白くし艶を好くする衛生上の効能大ひなるは云ふ迄も無く上に掲ぐる圖の如く堅く其蓋に密着して解るゝ事無れば之を用ゆるに便利能く寫一瀉つて手を脱するも湯水に沈み汚水流しに上込ひの愛ひあらず用ひ終つて箱に納むる時も手を觸るゝの煩ひ無く且つ底に着く事無れば濕りを生せず乾くに早く能く最終迄用ひ盡すを得用ひ盡して後は更に新なるを差替る事を得るのみか他の石鹸を入るゝも差支へなく意匠体裁兩なから新奇他に比類無き特色を備へ御常用御進物共に至極適當にて箱入娘の名に背かざる良石鹸なれば一度試みて其妙を知りたまへ

意匠登録
登録商標

新意匠ふたつき石鹸
箱入娘

月印定價
三個入函入　金七十五錢
○一個入　金二十五錢

郵便税
三個入八錢
一個二錢

月印の方は使用なされて后いつまでも麝香の匂去らず

花印定價
三個入函入　金四十五錢
○一個入　金十五錢

送金は順慶町局宛

滿天下に未だ類なき蓋付石鹸箱入娘の使用法は輕便故に湯屋又は何れにても使用なさるも蓋に石鹸附着の儘おつかひなさるに至極便利珍寶なる化粧石鹸○但し使用終后粉らしきものとさしかへできうる也又他の石鹸と異なり其柔軟なるはリン配合せるに付全体を美しくする奏効の爲め且又顔手足のあれ及び發疹を治し色を白くし艶を出す事妙也

○貴婦人紳士の御常用御進物等には至極適當の良石鹸也

特約本舗

大坂順慶町通り一丁目同心齋橋八幡筋南

長川石鹸部

賣捌御賣

丹平商會

大取次

大坂博勞町中橋東　小山松榮堂
同　道修町三丁目　賣藥卸賣會社
同　平野町四丁目　飯田皆治堂
東京兩國米澤町　大木口哲本店
東京日本橋通四丁目　津村順天堂
高松市機屋町一丁目　千切谷商店
神戸市元町一丁目　赤井筒中村
岡山市東中島町　加藤加賣堂
馬關市入江町　秋本秋豊堂
高知市通町　竹井至誠堂

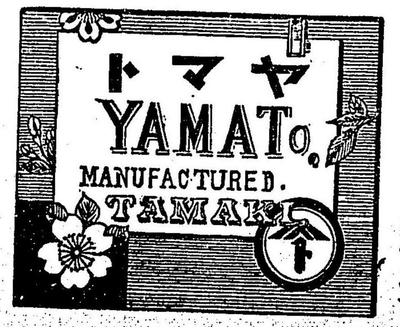
二番目　幡隨長兵衛

江戸稱宜町村山座序幕表の場
同く舞臺金平法問爭の場

一水野十郎左衛門　市川八百藏
一阪田金左衛門　市川宗三郎
一青山伴藏　市川蝦蛄六
一赤阪文平　市川市平
一早苗田村藏　市川瀧藏
一水野の仲間市助　市川舛六
一幡隨長兵衛　市川團十郎
一極樂十三　尾上多見之助
一電重五郎　市川團七
一神田彌吉　市川大よし
一小佛小兵衛　市川舛三郎
一火繩賣半次　市川團八
一舞臺番新吉　市川舛藏
一札賣〻　市川染太郎
一木戸番　市川八平
一糸屋佐兵衛　市川丹次郎
一糸屋娘お花　市川猿之丞
一茶屋の娘　市川百々次
一芝居見物人　大勢
一源、頼義　市川幸升
村山又三郎
一御臺綾の方　市川八百枝
出來島万太夫
一加茂義綱　市川栗三郎
村山四郎太郎
一阪田金平　市川染五郎
阪田四郎左衛門
一慢容上人　市川幡谷
小舞庄左衛門
一臼井の娘柏ハ前　市川升代
左近源左衛門
一其他郎黨子性等

右役名の左脇に下げて記したるは當時此役々を演じたる俳優の名なりと知り玉ふべし

舞臺は都て慶安三年稱宜町村山座芝居表掛りの体なり、此に札賣木戸番大勢の見物人を斷はつて居る、見物は金平法問の狂言が面白いと云ふ評判をしながら入る、此（幡隨の子分）國五郎、

すきとをりたる髪の油
一名水晶香油
無芳
色香
透卓
明絶


一瓶定價金拾八錢
抑も此やさと香油は現今歐洲各國にて男女とも專ら需用する品にて今般始めて英國より輸入したる油に種々の芳香品及ひ髪のくせ等を直す藥品を數多用ひたれば髪のつやを增し又くせを直しふけを取る故常に用ゆれば腦を爽にし匂ひよろしき故香水を用ひずともぷんぷんとして髪の悪しき香を去り別して人寄の場處へ御越しの節は是非とも御用ひありたし外に色々功能あれど略し置き御試の上其功能の確なるを御實驗あらん事を
大阪博勞町心齋橋南入
發賣元　白粉製造　玉樹福生堂

小佛小兵衛、神田彌吉出來り「唐犬兄貴に用が有て來たから一寸爰へ呼んで貰ひたいと言ふ、此時木戸の内より唐犬十右衛門町奴にて出來り長兵衛殿の言附で品川まで行く積りだから余の跡へ三人割込み見て歸るが宜い、と是に〻重五郎等は木戸番の案内にて芝居へ入る、十右衛門は茶屋の女に紙を拵へて來くれと頼み床几に腰を掛て待て居る、此へ木戸の中より青山伴藏、赤阪文平醉狂ふた侍にてお花、お赤姉妹の娘を引立て〻出る、跡より糸屋佐兵衛追掛けて出來り 佐「コリヤ娘を何うなさるすと支ゐるを突退けて娘に酒の酌をしろと無理難題、佐兵衛が切りに詫るを聽容れずしてトヤ両人にて打据ゑる、上下手より、大勢出て喧嘩だ〳〵と騒ぐ、十右衛門見兼て侍両人の腕を捻上げ「百万石の大名の旅を被つた宿無しも往さ來るさに摺違ふ言はゞ天下の膝元の檜も歌舞伎御免の場所木戸前へ來てごたついたら八百八町の搆へ中どんなに吠付く病犬でも此唐犬が相手になり咬伏せると左右へ投退ける、悪侍 はは う〳〵の体にて向ふへ入る 佐「親方さんのお蔭で助かり升てござりますると娘共々禮を述べ再び木戸の中へ入る、向ふより水野十郎左衛門（旗本侍の拵へ）坂田金左衛門、渡邊綱九郎、仲間市助供をして出來る、是を見て札賣木戸番は「今朝程より御場所を拵へお待申て居りまするとて挨拶する 金「棧敷へは屏風を立て左右を圍ひ簾を下して外の者に見られぬ樣にしてあるかと念を押し木戸番に案内させて入る、十右衛門は之を見て「今のは神祇組の水野だが間違ひでも無ければいゝがと案じる所へ駕や空駕を昇て出來る十右衛門駕に乘り木戸番に「長兵衛どのに今の事をと言ふ件にて道具廻る。舞臺は都て古風なる芝居の舞臺の体なり爰に大薩摩連中居並び「扨も人皇六十代後朱雀院の御宇かと上鎖守府の將軍伊豫守源頼義公と申せしは天下の武職司り二條の御所に在しますと渺るり有て上手より坂田金平郎黨に太刀を持たせて出來り 金「四夷八荒の果までも和朝に歎たふ者も無く世は泰平に治まつたが只因るのは此金平大飯喰て寐ては起き扨〳〵退屈千万ドリヤ一ト寐入り寐まるべいかと肱を枕にして寐る、此へ橋掛りより加茂の次郎義綱臼井の娘柏の前を連て出來り郎黨に取次を頼む、金平起上りて二人を通し「此夜深にお出ありしは如何なる故かと仔細を尋ねる、義綱は「父公（頼義）には此程より佛法歸依の思し立に慢容上人の調を信じ此義綱を剃髪させ一門の菩提吊はせんと仰渡されゝヤ明日は東山より慢容上人を招待して義綱落飾と稱さりしかば館を拔出し柏の前の意見につき此所へは來りたりと柏の前共々金平を頼む、金平も承知して明けなば早々出仕なし君の御前で慢容めと一ト問答して取挫がんと両人を隠圍ひ郎黨には門を閉ぢて誰も入れるなと言附け上手へ入る、郎黨は下手に入る、既に其夜も明けぬれば頼義公の御前には御臺を初め臣下の者義綱君の剃髪を惜めど強て諫め兼列を正して着座なすと大薩摩の淨るり有て源頼義、御臺所其他臣下屠從して出來る下手よりは慢容上人出來り「兼て仰出されし加茂殿の御剃髪につき參殿仕ると言入るれば頼義「是迄敵となり味方となり戦死を遂げし輩の亡魂を吊はせたく存ずれば義綱に授戒を頼む急ぎ義綱是へ召せと近臣に命ずる所へ橋掛り より侍出來り「義綱君の御行衛が知れませぬと言上する、頼義氣色を損じ「詮義なして直樣是へ召連れ參れと教圍く拵橋掛より金平腹卷の上に墨染の衣を着し兜を冠りて出來り「斯な出立で御前へ突〻出たは慢容御坊に尋ねたき事があつてじゃ、見らるゝ通り某は胴三りの沙門にて頭は修羅の奴なり此分にて死する時は胴は佛体頭は凡俗とてもの事に上下とも誠の佛に成らるゝやう教へて玉はれ 慢「殊勝の願ひ南無阿彌陀佛と唱ふれば忽ち悪切消滅し極樂往生なさん事なんの疑ひあるべきか 金「然らば念佛を唱ふれば此世にては横難を免れ來世は佛に成ると云ふ確な證據ばし有るか 慢「念佛を申す行者には打つ太刀も身に立たぬとの經文こそ證據なれ 金「然らば御坊も現世にて見事横難の災を免れたまふかイテ試みんと慢容の頭を拳固にて打つ 金「目前見る横難を免るゝ事の出來ぬすくにうめと慢容を引敗き兜を取て慢容の頭へ冠せる、此時向ふにて「否だ〳〵了簡ならねへと言ふ聲する、舞臺番新吉見物を制する、此へ水野の仲間市助火繩賣の半次を捕へ出來り「

登錄商標

近來にせ物の有り御買求の節は金時の商標に御注意

定價 袋入 二錢五錢 鐵入 拾錢

商標

鐵入定價 小鐵入 金廿五錢 中鐵入 金五拾錢 大鐵入 金壹圓

箱入定價七服入六錢 拾四服入十錢

●顔手足。肌へ全身の色を白くし艶をよくし全身の悪しき臭を去り腋の下のくさきを消す

右の品は全國到る所の賣藥店小間物店に有り

浪花 大阪市東區船越町二丁目松屋町西入 本舗 金時堂 松本金祐製

遠國御注文の際は郵錢代用不苦

大阪天神橋筋壱丁目 松浦商店

陸軍々醫總監正四位勳二等松本先生有効保証

登錄商標

定價廿四日分壹圓壹週分卅四錢（半週分十四錢）

大坂市東區唐物町東堀

元祖本舗 道修町貳丁目 末野八木堂
特心齋橋八幡筋 福菱賣藥卸賣會社
約心齋橋博勞町 賣藥卸賣丹平商會
道修町淀屋橋 高橋盛大堂商店
店平野町心齋橋西 安々堂 飯田皆治堂 文局
日本橋貳丁目 鹽見樂山堂

聞きやア此奴は花川戸の長兵衛の言込で火鉢の口へ出て居るのださうだから知らねェ振で態と突きやアがつたに違へねェ　半「水野さんの仲間と言ふ印が無エから何所から這入つたと聞たのが悪いのなら何どもしろと言ふを新吉引受けて半次を引込ませ「狂言中ばに花道へ出てごたつかれちやア舞臺の邪魔に成ますからと市助を宥める市助聞かず新吉に武者振附くを新吉無理に引搦て向ふへ入れる、舞臺にては役者元の通りに居並び狂言を初める、此へ阪田金左衛門出來り「能くも只今身共の屋敷の草履取を打擲なし主人に恥辱を與へ居つたなと新吉を引据ゑ其上へ跨がり　金「サア役者ども今の跡を初めろ〳〵と傍若無人の振舞ひ、此へ舞臺前の土間より幟隨長兵衛舞臺に飛上り「其所で見物をなされては他の見物が迷惑ゆゑ元の所で御見物を願ひます　金「何所で見やうと勝手だが一体あれは何所の何奴だ　長「名乘るもけちな人入家柴花川戸の長兵衛と言ふ素町人でござります　金「其名を聞ては猶更引かれぬとねじれ掛るを長兵衛「まづ今日は何事も言ぬが花の花道をお下り被成て御見物をと頼む　金「夫程に願ひなら顔を立まいものでも無いが其素ッ首ゑ取た上でと刀を抜て切て掛る、長兵衛其刀を引奪り金左衛門を胸打に打すゑる、金左衛門「狼藉者〳〵と言ひながら逃ては入る、離子の上の床に下せし籠を捲上げ水野十郎左衛門渡邊綱九郎顔を出し　十「長兵衛、そちが手の中慌かに是にて見屆けた　綱「きつと覺ねて居ると此へ長兵衛の子分重五郎等出來り親分出入を諌つて下せェと言ふを長兵衛制して　長「道具方幕を引てくれと幕を引せる

廣告

見かへすように美人やなる佐賀水町糠

鷄卵入保證

定價錢入五錢
袋入三錢

本舗　大坂府立博物場前北新町中西商舘

すきとをりたる水おしろい

美晶白粉

代價
大　十五錢
中　十二錢
小　八錢

此美晶白粉ハ顔ノ艶ヲ出シ色ヲ白クシ又顔ニ物ノデキタルトキ又アセボナドニヌレバスグニ美クシナル事妙ナリ
此美晶白粉ハ此度新發明ニシテ今迄色々トコロリかしろい有之候ナレ共顔コシコミ候ニ付此度發明致候美晶白粉何程ヌル共決シテシコマヌ事保證ス何卒一度御使用有テ御愛買アラン事ヲ希フ

發賣元　大坂唐物町浪花橋南入　大川盛進堂

特約販賣

南久寶寺町三丁目　順慶町五丁目　三村商店
博勞町二丁目　西木善造
南久寶寺町三丁目　和田玉壽堂

賣捌所ハ全國有名ナル小間物店及賣藥店ニ販賣ス

貳幕目　花川戸長兵衛内の場

一幡隨長兵衛　市川團十郎
一唐犬十右衛門　市川八百藏
一薩摩源二兵衛　市川染五郎
一出尻清兵衛　市川猿藏
一釣鐘權藏　中村政次郎
一神田彌吉　市川大よし
一小佛小兵衛　市川升三郎
一冥土の六造　市川猿太郎
一大佛の三ぶ　市川升太郎
一水野の用人保昌武者之介　市川團七
一三浦小次郎　中村福助
一長兵衛女房おとき　市川女寅
一一子長松　市川英太郎
一其他仲間等

舞臺は都て江戸花川戸長兵衛住居の体なり、此に子分小佛小兵衛、神田彌吉等立掛り「村山座に押掛てゆき水野の首を取らねば腹が癒ぬと騒ぎ立つるを子分薩摩源次兵衛止めて居る、此へ奥より重五郎、出尻清兵衛出來り「親分が奥で靜に仕ろと言たと共々に制する所へ、三浦小次郎（旗本）馬上にて仲間を隨へ出來り案内を乞ふ、子分等は水野より押て來たと立騒ぐ　小「聊御いたすな兼て長兵衛とは近附の三浦小次郎なるぞと是にて子分俄かに鉢巻をとり尻を下す、此時奥より幟隨長兵衛出來り挨拶など宜しく有て　小「密々に其許へ申談ずる儀もあれば子分の者を暫く遠ざけられたしと言ふ、是にて長兵衛子分を奥へ遣り「如何なる御内談かと尋ぬる　小「今日彌宜町の芝居にて神祇組との爭論ありし由、どの道にも事穏便に納まり難し水野の家が斷絶と成るか其許を殺すか客易ならぬ騒ぎと成れば暫く恥辱を忍び妻子を召連れ某しが屋敷へ參りては呉まいか　長「今日の喧嘩も日頃の遺恨所詮此儘にやア濟ますめェ其處を思つて飽までも私一人命を捨て何もかも身に引受て死なば五分と五分枝葉の騒ぎは有ますまい、然し事を分けての御教訓ゆゑ私の代りに妻子をお預り下さりませぬかと此へ奥より源次兵衛先に女房お時出來り　源「唐大初め子分も大勢あれば何も妻子

東京小間物類
孝子
おやこうふだや
日曜日休業

商標

小兒胎毒丸
たいどくい

定價　金二錢●金五錢●金拾錢●金二拾錢●金五拾錢
●たいどく下し●くさ下し●しよくしよう●しよくたい●はらいた●其他
親より受けたる毒又はたん毒等を治し平常に持藥として小兒に用れば急病の患なし實に育兒上必要

本家　純與堂　大坂上福島正淨橋北詰　福田精平

を他へ預けるには及ぶめ　とき「若し相手が妻子と人質に取れば私も長兵衛の女房潔く長松を巻殺し返す刀で死ますると只願長兵衛に三浦の屋敷へ行くことを勧める　長「左様なればお詞に隨ひお屋敷へ御厄介に上りませうと漸く承知するとき「夫では直にと云ふを　長「直にお供をして往たら神祇組が怖さに三浦様を頼んだと言れるも無念ゆゑふ跡から直に參りませう　小「然らば直様迎ひの者を遣はさんと小次郎は馬上にて歸る、此へ重五郎等大勢出て來る長兵衛は「留守に水野から何と言て來るとも手向ひしては成らぬと戒むる折柄水野の用人保昌武者之助仲間を連て出來り「主人十郎左衛門申すには今日の爭論は酒興の上、それらの挨拶かた〳〵親友の者打集ひ酒宴を催し長〳〵懇意を結びたく、何卒今より御入來なし下されたしと述ぶる　長「折角の御招待ゆゑ後刻參上仕りますると挨拶する傍よりおとき「三浦様へ行うと約束したではござんせぬかと言ふを長兵衛叱り附て武者之助を歸す　長「三浦の迎ひが來ねへ内に水野の迎ひが來てはどうも行ずには居られぬと猶も子分に輕舉の無き樣戒めて與へ遣りお時に着物を出させ新しき上下を着け「若い時から此年迄喧嘩出入が片商賣今度は命を取らるゝとも相手は天下のお旗本こんな嗔な事は無ェと此へ唐犬十右衛門賊付て來り　唐「樣子は途中で聞て來たが水野の屋敷へは此唐犬が先陣後詰はおめへが出馬して骨を拾つて下せェ　長「志しは忝けないが一旦使に約束したからはおれが行にやア男が立ねへと此へ與より出尻清兵衛長松をおぶひ出來り「長松おいらが代りに行くと縋り止める　十右「兄貴は覺悟の事だけれど跡に殘つた姉御は固より可愛ざかりの長松も親が無けりやア肩身が狹い、わしを代りに遣てくれと云ふ尾に附てお時も止める　長「遺恨重なる旗本の神祇組に引けを取ちやア達師の恥人は一代名は末代の笑隠長兵衛けふが男の立時だと堅き覺悟に唐犬も止め兼　十右「さう云ふ兄貴の了管なら無理止めも出來ねへから跡へ殘つて仕返しをする時立派に命を捨やうと得心する、此へ子分大勢來て水野の屋敷へ切込んでと氣色込む所へ以前の武者之助出て來り「先刻より御入來をお待申て居りまするど言捨てゝ這入る　長「唐犬手前に頼んで置くは日が暮たら早桶を持て水野の屋敷へ迎ひに來てくれと縋る我子を引寄てホロリと成り「達者で居ろよと言乘てゝ出て行く此件にて幕

大詰

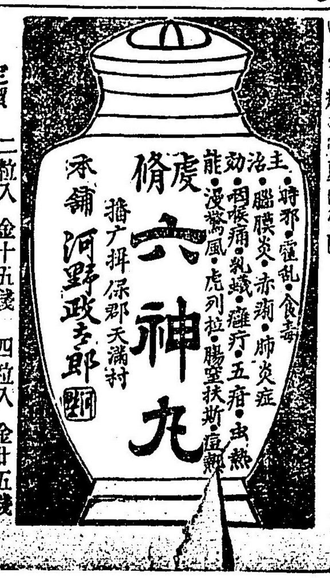
翻町水野屋敷の塲
同く　湯殿の塲
小石川水道橋の塲

一水野十郎左衛門　市川八百藏
一阪部三十郎　市川猿藏
一渡邊綱九郎　市川升六
一袴垂保兵衛　市川升藏
一保昌武者之介　市川國七
一熊阪長八　市川幡谷
一青山伴藏　市川蝦蛄六
一赤阪文平　市川市平
一早苗田村藏　市川瀧藏
一水野中間吉介　市川幸升
一牛込軍平　市川丹次郎
一阪田金左衛門　市川宗三郎
一極樂十三　尾上多見之介
一薩摩源二兵衛　市川染五郎
一釣鐘權三　中村政治郎
一神田彌吉　市川大よし
一小佛小兵衛　市川升三郎
一冥土の六藏　市川猿太郎
一大佛の三ふ　市川升太郎
一幡隨長兵衛　市川國十郎
一腰元　市川升代
一同
一其他子分大勢

特約店
道修町三丁目
發賣本舗　河野豐行堂
大阪市西區日吉橋北詰北ノ辻角
賣藥卸賣　株式會社

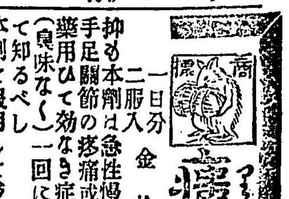
定價
二粒入　金十五錢
十粒入　金五十錢
金十五錢
四粒入　金廿五錢

元封百粒入特別壹個ニ付金四圓五十錢
抑も弊舗が發賣する本劑は往古より我邦に輸入せし六神丸の元祖なる清國上海新北門興聖街南口鶴芳堂雷允上の精製に係る所謂正眞六神丸にして其効驗の著きこと已に霜要諸氏の能く識認せらるゝ所なり就中食毒に中てられ又は烈き腹病及凡て急激症に用て最も奇拔なる効驗あり誠に稀世の良藥と謂つべし特に肺炎症患者には稀効あり大方諸氏速に本劑を服用して其卓効を知り賜はんことを希ふ



主治・腦膜炎・赤痢・肺炎症・百日咳・痛・乳癰・癤疔・五疳・虫熱・浸驚風・虎列拉・腸窒扶斯・豆腐能効

抑も本劑は急性慢性癲癇質斯（俗に痛風病）にして手足關節の疼痛或は數年間自由の不叶ざる症又他藥用ひて効なき症にしても此藥は生白大豆五粒を（臭味なし）一回に食できる患者は必ず全治す用ひて知るべし
本劑を服用して發熱するも驚く事なく押して服藥すれば速に根絶します又此藥は熱毒を小便に取るゆゑ下痢の患更になし



癲癇質斯湯
一日分　金拾錢　七日分　金六拾五錢
二服入　十四服入

安全燈は
振動轉倒するも石油の溢るゝ事なく若誤て轉倒すれば一分間に必ず消火す故に火災等の虞なし●金屬と厚硝子と接合し製造するを以て破損等の事なく●油の費消僅かにして便利德用他に比類なし●暴風大雨等の爲に消火せず●故に屋外屋内を問はず何れの塲所に用ゆるも便利なり且油煙立たざるを以て光力充分なり●旅舍温泉夜明し倉庫漁場、鑛山、養蠶等に用ひて非常に便益あり殊に一般の提灯代用をなす●便益に比較せば其價率ろ廉なり
定價即上等一個四十五錢中等三十五錢並二十五錢代價と百目に相當の小包料即百里以内八錢百里以上十六錢送れば速に郵送す●郵券代用不苦但一割増

川井氏發明安全燈ランプ

大坂東區船越町二丁目
發賣元　**日本用達合資會社**
關西一手
市内賣捌心齋橋南久太郎町金井南北堂○御靈前涙花館内金井店○道頓堀大岡書店○三軒屋町岡藥店○天神橋北詰東三筋角大谷商店松屋町本町中川店

第三號　三月一日發行　全紙數百頁以上而も價は僅に一部金四錢郵税共二十八錢六部前金郵税共二十八錢郵券代用不苦見本は郵券金四錢送らば直ち送る

快樂
なき絶珍微妙の愉快雜誌……苟も木佛金佛唐偏木ならぬ人は是ッ非見よ……天下亦と實に是れ粹の骨頂……通の親玉

發行所　大坂船越町骨屋町筋東入　美文社

は都て水野十郎左衛門屋敷書院の体なり、此近習居並び居て「只今保昌殿が歸られ直ぐに跡長兵衛が參るとの事兼て彼が子分と當組の者共々の喧嘩又張今日爾宜町にて長兵衛に恥辱をかけたれば町奴の根を斷ち葉を枯す思召しと噂し居る所へ武者之助長兵衛を案内して出て來る上より十郎左衛門出來り「早速の入來忝けなしゝ」なす、此へ坂部三十郎（旗本侍の拵）出て「大きに遲刻いたしたと長兵衛に初對面の挨拶なし「時に御主人御酒宴はまだでござるか」十「をお待申て居つたと武者之助に酒宴の支度をする、是にて腰元酒肴を運び出て十郎左衛門より血を初め長兵衛に指す」十「扨長兵衛今日お手招きしは御直參の若者ども皆白拵の大小に寛立の風流姿吉原町へ入込んで遊女をぞめき歩く為神祇組と呼ばれお手前の子分と度々喧嘩の樣子長き中には如何なる騒動に成らんも知れず今日よりして入魂を結ひたく夫ゆゑ招きたりと話す長兵衛も「御懇意を結びまするは身の面目なりと謝する、是にて並居る近習一同大慶至極と喜び祝ひて酒宴となり」三「長兵衛事は其以前寺澤家に奉公せし由殊に劍道は勝れたりと受たまはつたが後學の爲め手の中拜見いたしたいと近習に言附けて竹刀を持來らしめ」武「未熟ではござれども相手致さうと勧める、長兵衛は切りに辭退する武者之助竹刀を持て出し抜に打て懸る長兵衛身を開き立廻つて武者之介を打据ゑる、三十郎竹刀を取て長兵衛と立廻り三十郎危ふくなり、」三「驚き入つたと是より又酒宴となり十郎左衛門大盃を出して長兵衛に勧め武者之助酌をして態とこぼし長兵衛の膝へ酒を掛る之を幸ひに腰元「調度お風呂が宜しうございますれば一ト風呂お召しなされませ其間にお召物を洗つて干して置きませうと入浴を勧める長兵衛辭退するを」十「夫では懇意を結びし甲斐が無いと強られ長「[illegible]は項戴いたしませうと腰元案内して近習附添ふる」十「よもやと思ひの外只一人參りし長兵衛」三「浴衣一ッの其の所へ四人一所に掛りなばよも仕損じはござるまい」十「モシ手に餘る時は家に傳はる百足丸でと意氣込む件にて道具廻る

舞臺は都て水野屋敷湯殿の体なり、此へ腰元雪洞を持て長兵衛を案内して出來る、長兵衛着物を脱ぎ浴衣に着替る、腰元は長兵衛の着物を持て這入る、此時武者之介出來り「嗣度加減が宜しければお這入りなさい」長「お風呂を汚すでござりませうと風呂に入らうとするを見て武者之介ソレと相圖に近習四人出來り長兵衛に組付く長兵衛左右へ投退け武者之介を一當あてる、上手より十郎左衛門大身槍を提げて出來り「其方が命は當家へ土産にいたして參れ」長「兄弟分や子分の者が留るを聞かず只一人り迎ひに應して山の手へ流れる水も逆上る水野の屋敷へ出て來たは元より命は捨る覺悟度胸の据つた此胸をすつぱりと突つせェ」十「唯今一命斷つて遣はすと鎗をひねつて突て掛る長兵衛無刀にてあひしらに以前の三十郎窺ひ出でゝ後ろより長兵衛の肩先を斬附る是に十郎左衛門力を得て脇腹を突き止めを刺さうとする所へ近習出來り「幡隨の子分ども早桶を擔いて多人數迎ひに參りたりと物見の者より注進にござりますること言ふを聞き」十「早桶を持たせて來たとは宜い覺悟だと長兵衛を引起し「爰で死ぬとは運の宜い奴だと止めを刺す此伴にて道具廻る

舞臺は都て小石川水道橋近邊の体なり、此に唐犬十右衛門、源次兵衛、重五郎其他幡隨の子分大勢早桶を擔ぎ立懸り居る「是だけ人が集まれば親分の死骸を受取り直に敵の水野を初め坂部ぐるみ生捕つて息の根留るが腹癒せだと水野の屋敷へ押て行うとする此へ三浦小次郎馬上にて出て來り「長兵衛一人にて死する覺悟も跡々の人に難儀を懸まじと計らう所存水野は某し申論し切腹致させ此恨みは報じ遣はすべし多人數は引返し死骸受取人のみ參り事懸便に致しくれよ」十右「外ならぬ殿さま

半兵衛友染帶上其他いろ〳〵
大阪天神橋高麗橋筋角
八木商店

陸軍御用品
諸味味噌製造販賣元
大坂日本橋南詰一丁目
本店高橋秦造

わきが根きり確証藥
わきが根治する事確證すいか程重き慢性わきがにても本劑を用ゆれば奮つて殊に本劑にて一旦全治せば決して再發或は他病に變ずる患ひ無く生涯再び用藥を要せず是れ他にありふれたる賣藥と異なる所の本劑一種特有の神効也腋臭患者は速に此根治的の新藥を一試して世人の嫌忌する病根を斷絶せよ實に不思議の奇劑なり
（藥價）輕症根治分一劑送料共六十錢●重症根治分二劑送料共一圓二十錢●頑固症根治分四劑送料共二圓廿八錢●郵便切手代用必ず二割増しの事
腋臭必治劑
わきが根切藥
即効顯わるる
明証
拜啓過日腋臭必治劑注文致し早速試用候處其効能實に驚くべき顯著に有之候故他の患者へ言ひ傳へ候處取寄せの義依頼致され候に付何卒四劑大至急御送附被下度右御斷禮旁懇願申入候也との證狀を寄送せしは栃木縣上都賀郡清洲村早乙女抹三郎氏なり其他如斯根治的證狀山の如し來り見よ示す
專賣　大坂市淀屋橋北詰東側　日新館藥房支店

登録
玉初堂
商標
薫香
線香
燒香
煉香
●高尚優美なる御進物用必適品　調進
●御購求際は掲記の商標御認めを乞
大坂市南本町心齋橋西へ入
中造玉初堂

頼みなれど斯う成つてはと猶も行かうと言ふ小「然らば先づ此三浦を殺してゆけ　十右「何で此件にて慕

廣告

時計　印物

神戸市　坪井商舗　楠公前

電話三〇四

碁石　北久太郎町井池筋北入

大阪　碁將碁盤双六細工所　井にてまあり　磯貝利七

優美芳香　住の江香水

TRADE MARK　REGISTERED　登録商標

No,28B
Suminoye Bouquet,
2, Oz, Bottle.

一瓶　金九拾八錢
三瓶美麗紙函入　金二圓八拾五錢
硝子栓共口及ビ螺旋付振出口ノ二種アリ

本品ハ植物製ノ元質ニ新鮮爽快ナル薬物ヲ混和シタルモノニシテ弊舗之レニ「スミノエ、ブーケート」ノ名稱ヲ附シ發賣以來其佳快ナル芳香ハ大ニ貴紳淑女ノ高評ヲ博セリ此香水ハ手巾ニ用ヒテ長ク香氣ヲ失ハス且ツ最新ノ發見ニ係ル弊舗獨得ノ貴重ナル香料ヲ配合シタルヲ以テ精良無比ナル從來世間ニ有觸レタル諸大廣告ノ資物ト同日ノ論ニアラズ乞フ御試用ノ上御公評ヲ仰ガンノミ

此他弊舗製品中ニテ最モ貴重セラル、モノ、數種ヲ左ニ撰抜シテ愛顧諸彦ノ閲覧ニ供セント欲ス即チ當香料部設置以來二十有五年間學理上健全學上アラユル注意ト練達トヲ以テ得タル精製香物ニシテ從來内外各地ニ開設サル、共進會博覧會等ニ出品シテ數個ノ賞牌褒狀ヲ受領セル最モ流行ニ適シタル品目ト知ルヘシ世間ニ異種同名ノ製品許多アリト雖ヒ花客若シ使用ノ上ニ於テ其實効ヲ驗シ玉ハヾ我眞正ノ良品ト有名無實ノ粗品トハ區別自カラ判然タルベシ

○紫菫花　○紫麝香　○白薔薇　○答薔薇　○橙花滿開　其他各種一瓶一二三、若クハ六個美麗函入其他一ポンド入及半ポンド入御好ニ應ス

○紫菫花　○紫麝香　○白薔薇　○答薔薇　○橙花滿開
○アムバーグリース　○リラースプレンチ　○ヘリトローブ　○イラン、イラン　○グラニューノ、ローメ
○カンミア、ブーケー　○ワイト、リラース　○マスク、チンクル　○チュベローズ　○ヒヤーシンス
○エツスブーケー　○マグノリア　○ニュー、モウン、ヘイ　○バチュリー　○イリスプレンク
○レセダ　エキストラクト　○マイグロツスン　○チボ、ナエキス　○ツニルラプレンチ　○ジヨツキー、クラブ

硝子、栓コーク栓、又ハ螺旋付振出口各形瓶裝飾精磨摺水晶瓶各種一二三、若クハ六個美麗函入其他一ポンド入及半ポンド入御好ニ應ス

其他化粧香水○フロリダー○チーデコロン○チーデブレットフエルド○ラベンダー香水等各種

宮内省御用香水製造所

○弊舗ハ香水、香油、石鹸、白粉、齒磨其他ニ要スル凡百香料元賓ノ調製ニ付懇篤御依頼ニ應ス

大阪南久寶寺町四丁目　住吉屋　野々村香料部

郵便税率試驗器

書狀を郵便に出す時目方の事を案すると雖も伴にかける面倒をはぶき或は秤の目を瞑りて受取人に不足税の迷惑をかける事往々あり此品を用ゆる時は婦女子と雖も安く郵税を知るを得べし殊に圖の如き小器故旅行中には尤も輕便なり故に宮内省の御用を蒙り然れども販路の愛ひあり日増に擴まり候得共是迄は硝子製にて破損の故に今般惣金属に改良致候間進

惣金属製　硝子製　郵便代用及郵送料共　三拾五錢　郵便代用　二拾五錢　郵送料共　全し

金貨試量器

郵便代用一製　郵送料二ツ見本

●專賣特許審査第一二〇九七號　●總金屬製　●紫檀筒入　●金六十錢

新金貨のほんまとにせを明にしるうつわ

物抔には高尚にして珍らしき品なれば行久し〳〵重寶にて有益欠べからざる品なり

金製三十錢　銀製十五錢

遞信省御用品　農商務省特許正午計

大阪北久寶寺町中橋筋南ヘ入　木製十五錢

製造發賣元　林兼

新發明　鮮光玉　一名おしろいあらい玉

花こゝろあらい粉

此鮮光玉は世間ありふれの石鹸の類には無之弊店多年刻苦經驗發賣の域に進み御蔭を以て四方の御賞を受け尤も衛生を專として處劑に匂ひリスリン入に御座候間身体の惡臭を去り垢よく落て後心持いたつてよく肌膚あれざるのみならず吹出物の兆を防ぎいか程色黑き御方にても艶を出し色白くなる事受合實に鮮にひかる玉と名付たり効能の詳細は一度御使用の上御評判の程願上候

大阪市北區南森町百七十六番邸　天神表門側十丁目筋西へ入

本舗　加藤養新堂　大阪南久寶寺町板屋橋西入南側　和田五兵衛

御宿　泊り三十錢　下宿　大阪江戸堀北通二丁目　島田豐

藥品　寫眞器械　寫眞材料　寫眞ジツプ　寫眞ジツプ店

▲京都　阪井座　三月十五日開場
前狂言椅木山實記十幕　中狂言岸姫松戸袋一幕
切狂言蘭蝶仇名草一幕

▲神戸　大黒座
前探偵奇談決闘八幕　切白虎隊一座

▲神戸　相生座
片岡島之助中村獅漢中村梅昇一座にて本月十三日開場鼠小僧實錄の通し狂言

▲兵庫　明治座
前里見八犬傳後編　切嵐一咲一座

▲大阪　松島八千代座
前伊賀の水月　次興行花珊瑚

▲天滿座
前嵯峨怪猫傳八幕　切本月十五日より碧太平記白石噺四幕

▲堀江　明樂座
前鹽原多助一代記　切中村梅雀一座
金比羅御利生記

▲道頓堀中座
右團治橘三郎荒五郎延三郎一座四月興行
前狂言絵本太功記五幕　切狂言隅田川後傳三幕
明智光秀、法界坊　右團治
鈴木孫市、みさほ、　橘三郎
母さつき　荒五郎
眞柴久吉、宿直之助　延三郎

▲筑前博多　敎樂社　片岡長太夫一座
前伊賀水月柳生記　八幕
切鬼一法眼三略卷　一幕

▲京都　京極座
前狂言小倉色紙　次狂言揚巻助六
中狂言千両幟　切狂言流しの枝
正若一座

▲京都　福井座
前狂言鳥邊山浮名一風
中狂言野晒悟助　切狂言此糸蘭蝶

▲京都　戎谷座
前狂言河内山　中狂言長柄長者黛塚
切狂言相馬右御所

京都新京極夷谷座は今般京都演劇戎谷合資會社となる

琉球　卯三郎
源五郎　多見丸
彌治郎　七賀之助
新四郎　卯十郎
芝童

觀雅局　阪吃江源女下精中卜銀小侍酒牛臼狩平谷
樂田
之岩公又戸
助勝時平平光〉つ鯉上武松丸枝早姫金女部若腿季尾保かはと顧房
平澤井野井保昌女求
光監定將主童子税光監井將保昌女求

▲京都　阪井座
前狂言椅木山實記十幕　中狂言岸姫松戸袋一幕
切狂言蘭蝶仇名草一幕

▲神戸　大黒座
前探偵奇談決闘八幕　切白虎隊一座

▲神戸　相生座
片岡島之助中村獅漢中村梅昇一座にて本月十三日開場鼠小僧實錄の通し狂言

▲兵庫　明治座
前里見八犬傳後編　切嵐一咲一座

▲大阪　松島八千代座
前伊賀の水月　次興行花珊瑚

▲天滿座
前嵯峨怪猫傳八幕　切本月十五日より碧太平記白石噺四幕

▲堀江　明樂座
前鹽原多助一代記　切中村梅雀一座
金比羅御利生記

▲道頓堀中座
右團治橘三郎荒五郎延三郎一座四月興行
前狂言絵本太功記五幕　切狂言隅田川後傳三幕
明智光秀、法界坊　右團治
鈴木孫市、みさほ、　橘三郎
母さつき　荒五郎
眞柴久吉、宿直之助　延三郎

▲筑前博多　敎樂社　片岡長太夫一座
前伊賀水月柳生記　八幕
切鬼一法眼三略卷　一幕

色白くなる
ふじ美香水

かくし白粉　しろいの如く白きのみでなし地色の白くなる香水
●ためし小十錢●中二十錢●大五十錢●別製一圓
二圓三圓●郵便送りためし四錢別製小包郵便八錢

てきめん　其効に色白くなるはそのふじ美香水なり手足顔等へぬりつくれば立ところに白きことを雪あざむく

俳優及藝妓の常に落わへらるゝ優等品にして内外理化專門社會を稱賛せしむる本品は血肉自然の化色を基とせしを以て當世本品のお出るものなゝ本品を愛用せらるゆゑんなり

キメヲ細やかにし紅麗肉色の紳士窈窕嫻娜たる令嬢となると即座に現はる皺を伸し艶を出し色を白くして香氣の觀都たるは本品の特能とする所なり

大阪天滿市場岩井町濱側
發賣所　富士美屋

前狂言　槇碧　松壽　餌昇

五幕
美濃楠綱要軍配
戀飛脚大和往來

前狂言　池田與右衛門　竹中久佐
老母　家入道
氏　おはや
娼妓　八重花
いね　姫

▲道頓堀角座
前狂言　片脇　成美團一座
文學士香川慶二　岩尾
香川慶三郎、銀行員西澤金三　永瀬
有馬正作　秋月
有馬妹おちか、清元信きよ　川合
漁師大野保吉　武雄
銀行頭取辻芳雄　深澤
銀行員濱松拾吉、啞吾助　中野信近
按摩源松、署長花形清　堺東
妻おかね、大塚等　木村
肴屋留五郎、辻の妻おひら　大須賀
妻おきみ、神谷利作　善多野村矢

▲朝日座　鬼の宿
翠紅女史、三日月小僧　木松
藤波橋治郎、彌生蕉　松平
塚本茂兵衛、藤波新左衛門　小本
娘おみね、妻おらん、若者菊松　靜森
三浦源治郎、建部中尉、人夫頭仁兵衛　間
小頭孫七　峯
蜆屋安兵衛、尼妙岳　小崎
四島二雄、花房仲五郎　野井
福

▲辨天座
前狂言
中狂言
切狂言

心齋橋二丁目
をぐら油
商標
小倉屋平右衛門

銃砲火藥類
大阪市東詰唐物町堺筋角
芝辻理作

萬民必携
日用傳家寶
洋綴顧美本全一冊
紙數百五十ページ
特別減價三十八錢
郵税四錢
（目錄大要）●確實保險附奇法秘術百五十法●相撲最新發明諸製造法●酒類諸製造新法●有名大家製造方劑二百法●大醫秘方自家治療法●實業商家子弟教育●普通の俚言●頓説獨習指南●平常應用男女諸禮式●茶の湯圖稽古●生花水揚法の秘傳●日本西洋料理指南●家事必用四季惣菜の法●醬漬物鹽加減及漬け方數十法等なり
（郵便代用は必ず二割増しの事）

愉快秘訣
男女樂み草紙
特別減價廿八錢
郵税四錢
切手代用二割増

美人生殖器
五度搾の絶品、橘くの嬌態を描き風雅楚々飛魂消魄の想あらしむ開卷覽頭には男女丹青明を揭げ詳かに說萬餘言恐さに精神的と肉躰的す其に絶世の珍書なり
（注意）以上二書一時に注文の方へは非常大減價郵税共六十錢（郵便切手ならば七十錢）
しく二冊注文すべし
大阪市淀屋橋北詰　日新館支店

白粉

正眞麝香入

世界大王

定價
水練 拾二錢●四錢
製 六錢●八錢●拾錢
特別 三拾五錢●二拾錢●拾錢

大阪あみだ池西門
西洋水白粉 本舗 伊藤盛進堂
大阪南久寶寺町三丁目
發賣元 萩原吉兵衛
大阪市南久寶寺町二丁目
三久堂商店
兵庫切戸町
特約店 西田本店

●請合肉色の白くなる新劑

●色白くし
●艶を出し
●痘痕を取
●しわ延し
●あれ治し
●にきび取
●そばかす取

いか程色黑きも此藥大瓶一劑を用ゆれは忽ち
肉體白色に變化する確實なる新劑也
一度試み見よ眼前に爽快を覺ゆ

●價大瓶特別製厚一圓中瓶五拾錢小瓶卅五錢●小包料大二拾四錢中二拾錢小拾八錢要するに付添送の事●切手代用二割増しの事

色の白くなる藥

證明
實に廣告通其效の速かなる子實を入り誠に感
居申候との現狀送をられ
相續田こまり雲也 其他

本舗 大阪市北區堂島濱澄橋北詰北

春氣相催候處各位益御清適之條奉賀上候陳者弊舗開業以來數間各位ノ御引立ヲ以テ日增盛大ニ趣キ候段御愛顧ノ不淺故ト奉深謝候就テハ御厚志ノ万分一ニ酬ン爲一層奮發直段ハ勿論裁縫緻密加フルニ各自各國ノ裁縫雜誌ニ基キ歐米最新ノ流行ニ隨ヒ可嚀迅速ヲ旨トシ調進可仕候間舊ニ倍シ續々御用被仰付度奉希上候敬白

大阪市北區堂島濱澄橋北詰北
舞鶴屋洋服店主

尙御用ノ節ハ御一報次第何時ニテモ見本携帶御伺可申候

明治三十一年三月二十日印刷
仝 三月二十三日出版

大阪西成曾根崎六百二十九番地
編輯兼發行人 堀德太郎

大阪市西區新町北通一丁目
印刷人 中村宗策

大阪市北區堂島中一丁目
發行所 大阪劇場新報社
（電話二六六番）

（定價金六錢）

074778−000−5

特67−995

大阪劇場新報　第2号

大阪劇場新報社

M31

CEK−0078